

(様式第 10)

福大病庶第 135 号  
平成 30 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

学校法人福岡大学  
理事長 貴 正

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
氏 名	学校法人福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福岡大学病院
--------

3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号 電話(092)801-1011
---

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1 呼吸器内科		
2 消化器内科		
3 循環器内科		
4 腎臓内科		
5 神経内科		
6 血液内科		
7 内分泌内科		
8 代謝内科		
9 感染症内科		
10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
11 リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科
5血管外科	6心臓血管外科	7内分泌外科
		4心臓外科
		8小児外科
診療実績 形成外科 美容外科 こう門科		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1小児歯科	2矯正歯科	3口腔外科
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科	2病理診断科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60床	床	床	床	855床	915床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	464人	46人	469.4人	看護補助者	65人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	2人	12.1人	理学療法士	24人	臨床検査技師	70人
薬 剤 師	66人	0人	66人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助 産 師	45人	0人	45人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	900人	15人	911.3人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	46人
歯科衛生士	2人	2人	3.9人	歯科技工士	1人	事務職員	161人
管理栄養士	14人	1人	14.8人	診療放射線技師	48人	その他の職員	24人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	40人	眼 科 専 門 医	8人
外 科 専 門 医	38人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精 神 科 専 門 医	9人	放射線科専門医	9人
小 児 科 専 門 医	24人	脳神経外科専門医	11人
皮 膚 科 専 門 医	6人	整形外科専門医	21人
泌尿器科専門医	7人	麻 醉 科 専 門 医	15人
産婦人科専門医	17人	救 急 科 専 門 医	12人
		合 計	224人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(井上 亨) 任命年月日 平成27年12月1日

平成27年12月1日より、現在まで医療安全管理委員会委員長として医療安全管理に携わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	743.9 人	7.7 人	751.6 人
1日当たり平均外来患者数	1207.2 人	44.2 人	1251.4 人
1日当たり平均調剤数	6281.6剤		
必要医師数	154人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	25人		
必要(准)看護師数	418人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病 床 数	心 電 計	有・無	有・無
集中治療室	220.84 m <sup>2</sup>	鉄筋 コンクリート	10床	心電計	有・無	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 12.80m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 5台		病床数	1床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 16.80m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	307.80m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	109.90m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 自動血液培養・抗酸菌培養装置、嫌気チャンバー、細胞同定・感受性検査装置			
病理検査室	204.23m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 電動ミクロトーム、自動包埋脱水装置、凍結切片作成機クリオスタット、自動染色装置、遺伝子解析装置			
病理解剖室	132.80m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 解剖台、カラー臓器撮影装置、骨切装置			
研究室	5449.16m <sup>2</sup>	同上	(主な設備) 超小型カラーテレビ 他			
講義室	372.90m <sup>2</sup>	同上	室数 2室	収容定員	400人	
図書室	2246.16m <sup>2</sup>	同上	室数 3室	蔵書数	132,000冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.7%	逆紹介率	71.1 %
算出根拠	A：紹介患者の数		17,621人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,564人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,039人
	D：初診の患者の数		23,287人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
石倉 宏恭	福岡大学病院		院内監査委員	有・無	1
田中 芳明	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
北野 登美子	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)

3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
病院ホームページ	



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植	0人
重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病 インターフェロンα皮下投与及びジドブシン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

- (注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。
- (注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	48
2	筋萎縮性側索硬化症	11	57	特発性拡張型心筋症	38
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	6
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	12
5	進行性核上性麻痺	21	60	再生不良性貧血	12
6	パーキンソン病	358	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンテントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	40
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トウース病	1	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	85	66	IgA腎症	11
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	59	68	黄色靭帯骨化症	12
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	10	69	後縦靭帯骨化症	69
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	15
16	クロー・深淵症候群		71	特発性大腸骨頭壊死症	78
17	多系統萎縮症	41	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	49	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	12	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	4
22	もやもや病	76	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	70
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	19	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	2	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	56
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	56
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	3
32	自己食食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	34	89	リンパ管筋腫症	10
35	天疱瘡	14	90	網膜色素変性症	26
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	18	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	53
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	14	95	自己免疫性肝炎	9
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	123
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	226
43	顕微鏡的多発血管炎	15	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	137	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	48	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	35	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	16	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	11	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	5	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮膚下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痲痺重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	蝸耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痲痺・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症		208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳髄黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	1
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	8	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性慢性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部頭面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部頭面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	7
234	ペルオキシゾーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球病	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性薩炎	
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ホルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・入退院支援加算3
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟 入院基本料 (一般病棟7対1 入院基本料)	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料 精神病棟 入院基本料 (精神病棟13対1 入院基本料)	・データ提出加算2
・超急性期脳卒中加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・診療録管理体制加算1	・認知症ケア加算1
・医師事務作業補助体制加算(50対1)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算(25対1(5割未満))	・精神科急性期医師配置加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・救命救急入院料1(救急体制充実加算、小児加算あり)
・看護補助加算2(50対1)	・救命救急入院料4(救急体制充実加算、小児加算あり)
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料3 (※CCUのみ早期離床・リハビリテーション加算あり)
・重症者等療養環境特別加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・無菌治療室管理加算2	・総合周産期特定集中治療室管理料
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料1
・精神科リエゾンチーム加算	
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算届含む)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・総合評価加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・
・入退院支援加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん患者指導料 イ	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導料 ロ	・検体検査管理加算(IV)
・がん患者指導料 ハ	・国際標準検査管理加算
・外来緩和ケア管理料	・遺伝カウンセリング加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・糖尿病透析予防指導管理料	・胎児心エコー法
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ヘッドアップティルト試験
・外来放射線照射診療料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ニコチン依存症管理料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・療養・就労両立支援指導料の注2に規定する相談体制充実加算	・脳波検査判断料1
・がん治療連携計画策定料	・神経学的検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補聴器適合検査
・排尿自立指導料	・コンタクトレンズ検査料1
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・小児食物アレルギー負荷検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・内服・点滴誘発試験
・薬剤管理指導料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・医療機器安全管理料1	・画像診断管理加算3
・医療機器安全管理料2	・ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・歯科治療総合医療管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算	・冠動脈CT撮影加算
・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・外傷全身CT加算
・遺伝学的検査	・小児鎮静下MRI撮影加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
---------	---------

・頭部MRI撮影加算	・CAD/CAM冠
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2 (歯科技工加算)
・外来化学療法加算1	・センチネルリンパ節加算
・無菌製剤処理料	・組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・運動器リハビリテーション料(I)	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)
・運動器リハビリテーション料(II)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・脊髓刺激装置植込術及び脊髓刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料(I)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・リンパ浮腫複合的治療料	・羊膜移植術(学会認定施設書の提出の必要性)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・救急患者精神科継続支援料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・認知療法・認知行動療法1	・網膜附着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・精神科作業療法	・網膜再建術
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	・人工中耳植込術
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・医療保護入院等診療料	・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)

・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・人工臓器検査、人工臓器療法	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・同種死体肺移植術
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・生体部分肺移植術

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管尿管閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱尿管閉鎖術	・生体腎移植術
・内視鏡下筋層切開術	・膀胱水圧拡張術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術(胃瘻造設術)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・輸血管理料(Ⅱ)



・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・貯血式自己輸血管理体制加算
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	・自己クリオプレシテート作製術(用手法)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・大動脈バルーンポンピング法(LABP法)	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・放射線治療専任加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・外来放射線治療加算
・体外衝撃波胆石破砕術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下肝切除術(「1 部分切除」「2 外側区域切除」。亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く)、2区域切除及び3区域切除以上のもの。)	・1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)
・体外衝撃波膵石破砕術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・直線加速器による定位放射線治療
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・同種死体腎移植術	・病理診断管理加算(1)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・病理診断管理加算(2)	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・





(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規動脈硬化診断指標:LC-MS/MSインプロスタン分析法の臨床的意義の確立	瀬川 波子	循環器内科	1,690,000	補委 日本学術振興会
妊娠高血圧症候群重症化予防に向けた血圧変動性の評価と生活習慣指標の作成	椎葉 美千代	循環器内科	1,560,000	補委 日本学術振興会
経皮的冠動脈形成術の中長期的治療成績に関与する因子の検討	池 周而	循環器内科	780,000円	補委 日本学術振興会
運動によるHDL代謝・機能の向上作用とミトコンドリア機能へおよぼす効果の検討	上原 吉就	循環器内科	2,470,000	補委 日本学術振興会
HDLによる新規動脈硬化症診断・治療のトランスレーショナルサイエンスの実践	朔 啓二郎	循環器内科	1,430,000	補委 日本学術振興会
心筋細胞膜不安定化におけるC蛋白共役型受容体構造変化と機能解析ー心保護薬への影響	三浦 伸一郎	循環器内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
新規アポA-1模範ペプチド(改良型FAMP)の開発と動脈硬化診断・治療への応用	朔 啓二郎	循環器内科	3,636,364	補委 文部科学省
薬物性肝障害関連書類の作成、臨床試料収集と関連解析	向坂彰太郎	消化器内科	1,000,000円	補委 木原財団
びまん性肺疾患に関する調査研究	渡辺 憲太郎 (研究分担者)	呼吸器内科	300,000円	補委 厚生労働省
間質性肺炎の早期線維化巣からの病態関連因子抽出によるバイオマーカー開発と臨床応用	渡辺 憲太郎 (研究分担者)	呼吸器内科	65,000円	補委 独立行政法人 日本学術振興会
久山町一般住民におけるむずむず脚症候群と脳心血管病についての検討	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	910,000円	補委 文部科学省
イビキ症の精神生理学的影響について	吉村 力 (研究分担者)	呼吸器内科	300,000円	補委 文部科学省
衝動性制御不全マウスモデルの行動および脳内モノアミン動態解析	川崎 弘詔	精神医学	2,200,000円	補委 文部科学省
自殺未遂者再企図防止事業	衛藤 暢明	精神医学	1,566,000円	補委 厚生労働省
iPS細胞由来の神経移植で難治性てんかんを治療する	廣瀬 伸一	小児科	900,000円	補 日本学術振興会
次世代手法でのノックインラットと人工患者iPS細胞を用いたてんかんの分子治療開発	廣瀬 伸一	小児科	6,500,000円	補 日本学術振興会
小児てんかん性脳症の革新的創薬を見据えた病態解析	廣瀬 伸一	小児科	16,690,910円	補 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	廣瀬 伸一(分担)	小児科	1,527,000円	補 厚生労働省
小児交互性片麻痺とその類縁疾患の分子病態研究	廣瀬 伸一(分担)	小児科	1,500,000円	補 国立精神・神経医療研究センター精神・神経疾患研究開発費
小児の急性脳症・けいれん重積状態の診療指針の確立	廣瀬 伸一(分担)	小児科	300,000円	補 厚生労働省

小計20

先進的治療法が確立した新たな成育疾患のスクリーニング法の開発とその適応基準の作成に関する研究(分担課題:次世代シークエンサーを利用した遺伝学的診断によるスクリーニング後方支援体制の確立に関する研究)	廣瀬 伸一(分担)	小児科	500,000円	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
川崎病急性期新治療薬「シアル化Fc製剤」の開発	吉兼由佳子	小児科	1,100,000円	補	日本学術振興会
炎症性動脈瘤形成症候群の治療法選択に関する研究	吉兼由佳子(分担)	小児科	分担金無し	補	厚生労働省
バイオマーカーを用いた川崎病急性期治療法選択に関する研究	吉兼由佳子(分担)	小児科	100,000円	補	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
肺区域切除におけるビタミンB2と光線力学診断用胸腔鏡システムを利用した蛍光法による新しい肺区域同定法の探索的臨床試験	早稲田龍一	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	500,000	補 委	公益財団法人 臨床 研究奨励基金 臨床 研究助成金
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模他施設研究(菅野信彦)	山本卓明	整形外科	100,000円	補 委	厚生労働省
大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折の予後規定因子の解析と予防法の構築	山本卓明	整形外科	4,940,000円	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
高齢者における外傷性腱板断裂に関する臨床病理学的検討	伊崎輝昌	整形外科	3,000,000円	補 委	JA共済交通事故医療研究助成
骨・軟部腫瘍の診断および治療に関する研究	西尾 淳	整形外科	500,000円	補 委	緒方記念科学振興 財団
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫瘍および関連疾患についての調査研究	秋田定伯	形成外科学	18,876,000	補 委	厚生労働省
神経難病に対するロボット神経工学治療の社会実装ニーズの把握	秋田定伯	形成外科学	3,625,000	補 委	厚生労働省
効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究	秋田定伯 (代表者:白阪琢磨)	形成外科学	500,000	補 委	厚生労働省
糖尿病及び慢性腎不全による合併症足潰瘍・壊疽等の重症下肢虚血重症化の予防に関する実態調査	秋田定伯 (代表者:大浦武彦)	形成外科学	代表者一括計上	補 委	厚生労働省
口腔内細菌叢とがん、糖尿病など全身疾患との関わりとその予防戦略	秋田定伯 (代表者:浅香正博)	形成外科学	代表者一括計上	補 委	厚生労働省
異種-脱細胞化組織骨格の再細胞化による、再生気管、再生肺の移植研究	秋田定伯 (代表者:土屋智史)	形成外科学	65,000	補 委	文部科学省(学振) 基盤研究B
脳血管障害による片麻痺の歩行・下肢体幹運動機能改善効果を得るための新たな医療機器、下肢装着型ロボットスーツHALに関する医師主導治験	井上 亨	脳神経外科	300,000円	補 委	厚生労働省
上肢に対する単関節型Hybrid Assitive Limb(HAL)の医師主導治験	井上 亨	脳神経外科	500,000円	補 委	厚生労働省
光脳機能イメージングを用いた脳深部刺激療法によって誘発される脳可塑性の解明	森下 登史	脳神経外科	100万円	補 委	文部科学省
光脳機能イメージングによるパーキンソン病に対する脳深部刺激療法効果発現機序の解明	森下 登史	脳神経外科	876,120円	補 委	文部科学省
脳梗塞発症後のマクロファージ活性化とその制御による脳保護作用	八木 謙次	脳神経外科	780,000円	補 委	文部科学省

神経皮膚症候群に関する診療科横断的な診療体制の確立	今福 信一	皮膚科	800,000	補委	厚生労働省
がん核酸医薬の開発	宮本新吾	産婦人科	472,000	補委	福岡大学領域別研究
着床障害への再生医療研究	城田京子	産婦人科	315,000	補委	福岡大学領域別研究
卵巣癌分子標的治療薬創薬	南 星旭	産婦人科	315,000	補委	福岡大学領域別研究
ゲノム編集を活用した新たながん治療標的分子の探索・同定	宮本新吾	産婦人科	6,000,000	補委	平成28年度学術研究振興資金
卵巣癌に対するmicroRNAを用いた核酸医薬とコンパニオン診断薬の開発に関する研究	宮本新吾	産婦人科	300,000	補委	中外製薬2017年度研究活動支援
マイクロバイオーム解析における絨毛膜羊膜炎リスク診断検査法の開発	宮本新吾	産婦人科	500,000	補委	財)臨床医学振興財団
マイクロバイオーム解析による絨毛膜羊膜炎リスク診断検査法の開発	宮本新吾	産婦人科	300,000	補委	タケダ・リサーチサポート
絨毛膜羊膜炎のリスクを診断する検査法の開発	宮本新吾	産婦人科	1000000	補委	(公財)柿原科学技術研究財団
アデノウイルス眼感染症の新しい薬物治療の探求と臨床応用化に関する研究	内尾英一	眼科		補委	文部科学省
肝Dual-energy CTの新たな臨床応用:平衡相データを用いた肝線維化診断	吉満研吾	放射線科	¥1,200,000	補委	文科省科研費基盤研究C
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業:身体活動の健康科学に関する総合研究	吉満研吾	放射線科	¥300,000	補委	身体活動研究所
定量的画像バイオマーカーとしてのMRE実現に向けた評価法確立とデータベース作成	吉満研吾	放射線科	¥470,000	補委	文科省科研費研究基盤B
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法と高齢者評価ツールの確立および治療効果と毒性に関するバイオマーカーの探索的研究	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	1,000,000円	補委	AMED
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	400,000	補委	厚生労働省
間脳下垂体機能障害における調査研究	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	150,000	補委	厚生労働省
重症型原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	300,001	補委	AMED
プリオン病の早期診断基準の作成を目指した新たなエビデンス創出とその検証に用いる遺伝性プリオン病未発症例の	坪井 義夫	神経内科学	800,000	補委	AMED
パーキンソン病の起因となる腸管α-Synuclein以上蓄積に対する腸内細菌層の関与の解明	坪井 義夫	神経内科学	1,600,000	補委	AMEDt
Perry病診断基準の確立	坪井 義夫	神経内科学	1,400,000	補委	厚生労働省

プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	坪井 義夫	神経内科学	500,000	補委	厚生労働省
ビタミンによる様々な神経変性疾患の早期診断法 および予防・治療法の開発	坪井 義夫	神経内科学	100,000	補委	文部科学省
HAMに対するスアロイドの第2b相試験 (多施設共同プラセボ対照二重盲検比較試験)を医師主導治験として実施し、 認知症ワーキンググループの介護上のニーズに関する研究	坪井 義夫	神経内科学	2,200,000	補委	AMED
多系統萎縮症の進行・突然死に寄与するバイオマーカーの	合馬 慎二	神経内科学	50,000	補委	文部科学省
多系統萎縮症の進行・突然死に寄与するバイオマーカーの	藤岡伸助	神経内科学	600,000	補委	文部科学省
iPS細胞を用いたPerry症候群患者モデルの確立	三嶋崇靖	神経内科学	800,000	補委	文部科学省
術前運動療法による術後心機能・認知機能低下の予防効果	山浦 健	麻酔科学	1,100,000円	補委	科研費
癌関連マクロファージを介した血管新生因子CCN2のリンパ管新生制御機構の解明	近藤 誠二	歯科口腔外科	1,430,000	補委	(独)日本学術振興会
神経筋疾患の嚥下障害が栄養障害に及ぼす影響に関する研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	1,170,000	補委	(独)日本学術振興会
急性肝不全モデルにおけるトロンボモジュリン製剤の効果増強作用	星野 耕大	救命救急センター	1000,000円	補委	学術振興会
AIによるCTG解析	村田 将春	総合周産期母子医療センター、産婦人科	315000円	補委	福岡大学領域別研究
麻黄湯によるオートファジー機能強化を介したウイルス感染防御	鍋島 茂樹	総合診療部	¥1,430,000	補委	文部科学省
平成29年度福岡大学総合科学研究部中皮腫早期診断開発チーム	鍋島 一樹	病理部	2,470,000	補委	福岡大学総合科学研究部
基盤研究(C) 課題番号:24590495 細胞診による中皮腫診断に関する研究:p16 FISHと免疫染色による腫瘍性の確認 平成28年度～平成30年度	鍋島 一樹	病理部	900,000	補委	学術研究助成基金助成金
高TG、低HDL血症を中心とした脂質異常症関連遺伝子解析	松永 彰	臨床検査医学	¥1,300,000 (平成29年度)	補委	日本学術振興会
非抗菌薬を用いた持続感染細胞の駆逐を目指したMRSAバイオフィルムの制御	高田 徹	感染制御部	¥2,730,000	補委	文部科学省科研費
地域ネットワーク内での輸血研究会開催および行政機関と協力しての啓発強化	熊川みどり	輸血部	660,000円	補委	厚生労働省医薬品局
ICTを活用した血液の需要や適正使用の向上に関する研究	熊川みどり	輸血部	630,000円	補委	日本医療研究開発機構

小計18  
合計78

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ueda Y, Shiga Y, Idemoto Y, et al.	循環器内科	Association between the presence or severity of coronary artery disease and pericardial fat, paracardial fat, epicardial fat, visceral fat and subcutaneous fat as assessed by multi-detector row computed tomography.	International Heart Journal in press	Original Article
2	Komaki T, Umeta H, Mori K, et al.	循環器内科	A Rare Case of Biphasic Malignant Peritoneal Mesothelioma with Refractory Ascites	Internal Medicine 56(7):861-864	Original Article
3	Gondo K, Ike A, Ogawa M, et al.	循環器内科	Is a bare-metal stent still useful for improving the outcome of percutaneous coronary intervention? From the FU-Registry.	J Cardiol. 69(4):652-659	Original Article
4	Ishida T, Miura S, Fujimi K, et al.	循環器内科	Significance of Cardiac Rehabilitation on Visit-to-Visit Variability of Blood Pressure in Patients With Cardiovascular Disease in a 12-Month Follow-Up.	J Clin Med Res 9(4):345-352	Original Article
5	Adachi S, Miura S, Shiga Y, et al.	循環器内科	Effects of Tolvaptan With or Without the Pre-Administration of Renin-Angiotensin System Blockers in Hospitalized Patients With Acute Decompensated Heart Failure.	Int Heart J 58(3):385-392	Original Article
6	Shiga Y, Miura S, Motozato K, et al.	循環器内科	Comparison of Efficacy and Safety of Azilsartan and Olmesartan in Patients With Essential Hypertension.	Int Heart J 58(3):416-421	Original Article
7	Kato Y, Iwata A, Nakamura M, et al.	循環器内科	In-Stent Restenosis due to Stent Recoil After Third-Generation Drug-Eluting Stent Implantation.	J Clin Med Res 9(6):534-538	Original Article
8	Kato Y, Iwata A, Zhang B, et al.	循環器内科	Effects of dipeptidyl peptidase-4 inhibitor sitagliptin on coronary atherosclerosis as assessed by intravascular ultrasound in type 2 diabetes mellitus with coronary artery disease	IJC Metab Endocr 16:1-9	Original Article
9	Koyoshi R, Shiga Y, Idemoto Y, et al.	循環器内科	Safety of Landiolol Hydrochloride as a Premedication for Producing an Appropriate Heart Rate for Multidetector-Row Computed Tomography Coronary Angiography.	J Clin Med Res. 10(1):22-26	Original Article
10	Shiiba M, Zhang B, Miura S, et al.	循環器内科	Association between discordance of LDL-C and non-HDL-C and clinical outcomes in patients with stent implantation: from the FU-Registry.	Heart Vessels 33(2):102-112	Original Article
11	Shiiba M, Zhang B, Miura S, et al.	循環器内科	Correction to: Association between discordance of LDL-C and non-HDL-C and clinical outcomes in patients with stent implantation: from the FU-Registry.	Heart Vessels Epub ahead of print	Original Article
12	Matsuoka Y, Ike A, Ogawa M, et al.	循環器内科	Sex difference between target levels of cholesterol-related parameters and post-PCI long-term clinical outcomes: from the FU-Registry.	J Cardiol. 71(3):259-267	Original Article
13	Morito N, Suematsu Y, Koyoshi R, et al.	循環器内科	The Current Conditions and Lifestyles of Obese University Students.	J Clin Med Res. 10(3):240-246	Original Article
14	Futami M, Fujimi K, Ueda T, et al.	循環器内科	Cardiac rehabilitation in patients with cardiovascular disease leads various hemodynamic parameters obtained using simple non-invasive tests to their appropriate levels.	Int J Cardiol Heart Vasc. 17:23-29	Case report
15	Arinaga T, Komaki T, Miura S, et al.	循環器内科	A rare case of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis complicated with progressive pericardial effusion	Journal of Cardiology Cases 15(5):163-166	Case report
16	Komaki T, Miura S, Gondo K, et al.	循環器内科	A rare case of acute myocardial infarction with a non-specific symptom in a young female with systemic lupus erythematosus.	J Cardiol Cases. 16(2):56-61	Case report
17	Seko H, Miyazaki M, Suematsu Y, et al.	循環器内科	A Case of Multifaceted Assessment in an Elderly Patient With Acute Decompensated Heart Failure.	Cardiol Res. 8(6):339-343	Case report
18	Kazuhide Takata, Akira Anan, Daisuke Morihara, et al.	消化器内科	The Rate of Referral of Hepatitis Virus Carriers to Hepatologists and the Factors Contributing to Referral	Internal Medicine 56(15),1943-1948,2017	Original Article
19	Yasuaki Takeyama, Yuko Uehara, Akira Anan, et al.	消化器内科	Increased hepatic ABCA1 transporter is associated with hypercholesterolemia in a cholestatic rat model and primary biliary cholangitis patients	Medical molecular morphology 50:227-237,2017	Original Article
20	Tetsuo Sohda, Eri Yamauchi, Akira Anan, et al.	消化器内科	Non-response to daclatasvir and asunaprevir therapy in patients co-infected with hepatitis C virus genotypes 1 and 2	Hepatology Research 47(4):364-367,2017	Case report

小計20

21	Takata K, Shakado S, Sakamoto K, et al	消化器内科	Disappearance of multiple hyperechoic liver nodules in sporadic porphyria cutanea tarda after treatment with ledipasvir/sofosbuvir for hepatitis C.	Clinical Journal of Gastroenterology 10(5):459-463,2017	Case report
22	石橋英樹, 二村 聡, 富岡 樹隆, 他	消化器内科	術前に確定診断に至らなかった隆起型胃MALTリンパ腫の1例	胃と腸 52(10):1355-1360,2017	Case report
23	Kushima H, Tokimatsu I, Ishii H, et al.	呼吸器内科	A New Amino Acid Substitution at G150S in Lanosterol 14- $\alpha$ Demethylase (Erg11 protein) in Multi-azole-resistant <i>Trichosporon asahii</i> .	Med Mycol J, 2017;58(1):E23-E28	Original Article
24	Kinoshita Y, Watanabe K, Ishii H, et al.	呼吸器内科	Proliferation of elastic fibres in idiopathic pulmonary fibrosis: a whole-slide image analysis and comparison with pleuroparenchymal fibroelastosis.	Histopathology, 2017;71(6):934-942	Original Article
25	Kushima H, Ishii H, Kinoshita Y, et al.	呼吸器内科	Multiple circular pleural metastases of renal cell carcinoma.	Respir Med Case Rep, 2018;24:30-31	Case report
26	Ishii H, Shima R, Kinoshita Y, et al.	呼吸器内科	Marfan syndrome presenting with diffuse emphysematous change of the lung.	BMJ Case Rep, 2018 Feb 3;2018. pii: bcr-2017-224056. doi: 10.1136/bcr-2017-224056.	Case report
27	On R, Kushima H, Ishii H, et al.	呼吸器内科	Endobronchial lipoma: The diagnostic benefit of CT findings.	Intern Med, 2018;15;57(2):285-286	Case report
28	Kushima H, Ishii H, Kadota JI, et al.	呼吸器内科	Pulmonary Sarcoidosis Presenting with Thin-walled Small Cysts.	Intern Med 2017;56: 985-986	Others
29	Ishii A, Kang JQ, Schornak CC, et al.)	小児科	A <i>de novo</i> missense mutation of <i>GABRB2</i> causes early myoclonic encephalopathy	J Med Genet (vol.54 (3);202-211,2017)	Original Article
30	Ishii A, Watkins JC, Chen D, et al.	小児科	Clinical implications of <i>SCNA</i> missense and truncation variants in a large Japanese cohort with Dravet syndrome	Epilepsia (vol.58 (2):282-290,2017)	Original Article
31	Yamasaki Y, Uemura O, Nagai T, et al.	小児科	Pitfalls of diagnosing urinary tract infection in infants and young children	Pediatr Int (vol.59 (7);786-792,2017)	Original Article
32	井手康二, 後藤綾子, 松本 一郎, 他	小児科	人工呼吸器管理を要した食物依存性運動誘発アナフィラキシーの11歳女児例	日本小児科雑誌 呼吸・アレルギー学会誌 (vol.15 (1):8-12,2017)	Case report
33	井手康二, 西間大祐, 後藤綾子, 他	小児科	多発気管憩室を認めたMounier-Kuhn症候群疑いの15歳例	日本小児呼吸器学会雑誌 (vol.28 (1):21-27,2017)	Case report
34	渡邊恵里, 小野澤佳織, 藤田貴子, 他	小児科	14歳時に確定診断されたSAMHD1遺伝子変異によるAicardi-Goutières症候群の臨床経過	脳と発達 (vol.49 (1):51-52,2017)	Case report
35	Maeyama A, Hoshino Y, Kato Y, et al.	整形外科	Anatomic double bundle ACL reconstruction outperforms any types of single bundle ACL reconstructions in controlling dynamic rotational laxity.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2018 May;26(5):1414-1419. doi: 10.1007/s00167-017-4281-6	Original Article
36	Akiho S, Kinoshita K, Matsunaga A, et al.	整形外科	Incidence of delayed union 1 year after periacetabular osteotomy based on computed tomography	Int. Orthop. First Online: 10 October 2017	Original Article
37	Ishimatsu T, Kinoshita K, Nishio J, et al.	整形外科	Motor-Evoked Potential Analysis of Femoral Nerve Status During the Direct Anterior Approach in Total Hip Arthroplasty	J. Bone Joint Surg.-Am. doi:10.2106/JBJS.17.00679 In press.	Original Article
38	Seo H, Naito M, Nakamura Y, et al.	整形外科	New cross-table lateral radiography method for measuring acetabular component anteversion in total hip arthroplasty: a prospective study of 93 primary THA.	Hip Int.27(3):293-298,2017	Original Article
39	Yoshimura J, Hagio T, Noda M, et al.	整形外科	Optimal suture anchor direction in arthroscopic lateral ankle ligament repair	Knee Surg. Sports Traumatol. Arthrosc.2018 Jul;26(7):2110-2115. doi: 10.1007/s00167-017-4587-6. Epub 2017 May 26	Original Article
40	Minokawa S, Naito M, Shiramizu K, et al.	整形外科	Preservation Technique of the Piriformis Tendon is Superior to Reattachment Technique in Terms of Contiguity and Muscle Atrophy: Using Magnetic Resonance Imaging	Hip Int.2017, in press	Original Article

小計20

41	Ishimatsu T, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	整形外科	Return to sporting activity after osteochondral autograft transplantation for Freiberg disease in young athlete	Arch. Orthop. Trauma Surg.137, 959-965, 2017	Original Article
42	Akiho S, Yamamoto T.	整形外科	The incidence of delayed union 1 year after periacetabular osteotomy based on computed tomography	Int. Orthop.ISSN 0341-2695 (SICOT) DOI 10.1007/s00264-017-3656-2	Original Article
43	Matsunaga A, Akiho S, Kinoshita K, et al.	整形外科	The prevalence and risk factors for delayed union of the superior pubic ramus at one year after curved periacetabular osteotomy: its risk factor and outcome	Int. Orthop.First Online: 05 December 2017	Original Article
44	Akiho S, Yamamoto T, Kinoshita K, et al.	整形外科	The utility of false-profile radiographs for the detection of osteoarthritis progression in acetabular dysplasia	J. Bone Joint Surg. Open Access 2(4):e0023, December 28, 2017.	Original Article
45	Ishimatsu T, Naito M, Kinoshita K, et al.	整形外科	Three-dimensional computed tomography analysis on bony birth canal after bilateral periacetabular osteotomy.	J Orthop Sci 22:531-535, 2017	Original Article
46	山崎裕太郎, 柴田陽三, 櫻井真, 他	整形外科	Cuff tear arthropathy headとReverse shoulder arthroplastyの適応の違いとその成績	整形外科と災害外科 66;(3)592-597	Original Article
47	野村耕平, 柴田陽三, 櫻井真, 他	整形外科	Latarjet法施行後、実際のGlenoid trackはどれだけ拡大するか?	整形外科と災害外科 66(3):577-581	Original Article
48	金澤和貴, 三宅 智, 山本卓明, 他	整形外科	当院における小児上腕骨頭上骨折の治療成績の検討	骨折 40(1)45-49,2018	Original Article
49	金澤和貴, 山元孝亮, 山本卓明	整形外科	踵骨骨折後遺症に対する治療成績の検討	骨折 39巻2号,424-428, 2017	Original Article
50	鈴木正弘, 吉村一朗, 金澤和貴, 他	整形外科	鏡視下足関節固定術後の単純X線像による隣接関節の可動域評価	整形外科と災害外科 66, 46-49, 2017	Original Article
51	金澤和貴, 吉村一朗, 萩尾友直, 他	整形外科	趾節間外反母趾を有する外反母趾に対するAkin法を追加したDLMO法の治療成績	日本足の外科学雑誌 38巻1号, 22-25, 2017	Original Article
52	柴田光史, 尾上英俊	整形外科	上腕骨近位骨髄線損傷に対する手術症例の検討	整形外科と災害外科 66 (1),105-110,2017	Original Article
53	戸田 慎, 柴田陽三, 伊崎輝昌, 他	整形外科	リバーズ型人工肩関節置換術(RSA)Primary RSAとRevision RSAの検討	日本人工関節学会誌 47:241-242, 2017	Original Article
54	三宅 智, 玉井 幹人, 竹内 裕介, 他	整形外科	烏口肩峰靭帯の肩峰下面付着部の厚みの検討-MR評価-	肩関節 41巻2号 Page355-357(2017.09)	Original Article
55	宮崎弘太郎, 木山貴彦, 佐伯和彦, 他	整形外科	高位脛骨骨切り術の術後感染の検討	整形外科と災害外科 66;(3)509-512,2017	Original Article
56	萩尾友直, 吉村一朗, 金澤和貴, 他	整形外科	陳旧性足関節外側靭帯損傷に対する鏡視下足関節外側靭帯修復術々後における前距腓靭帯のMRI評価	日本足の外科学会雑誌 38 (1):122-125, 2017	Original Article
57	西野剛史, 柴田陽三, 櫻井真, 他	整形外科	髄核断裂と肩鎖関節症合併例の治療経験	整形外科と災害外科 66(3):571-576	Original Article
58	小谷尚也, 後藤 恭輔, 鎌田 聡,	リハビリテーション部	大腿神経麻痺に伴う大腿四頭筋の筋出力低下に対する ロボットスーツ HAL® 単関節タイプおよび 随意運動介助型電気刺激装置 IVES® の有効性	理学療法学 44(3) 232-237,2017	Original Article
59	Hashino Y, Nishio J, Maeyama A, et al.	リハビリテーション部	Intra-articular angiofibroma of soft tissue of the knee: A case report	Molecular Clinical Oncology 7(2): 229-232, 2017	Case report
60	Ishibashi T, Nishio J, Kobayashi S, et al.	整形外科	Chondropoma of the ankle in a child: A case report	J. Foot Ankle Surg. 56: 1284-1287, 2017	Case report

小計20

61	野田昌宏, 藤沢基之, 原正文	整形外科	パディング動作によって生じた肩甲下筋の筋性部損傷から復帰したプロ野球選手の一例	九州・山ロススポーツ医学科学会誌Vol.29: 49-52, 2017	Case report
62	藤井紀光, 前山彰, 城島宏, 他	整形外科	著明な両膝関節水腫を呈した樹枝状脂肪腫の1例	九州リウマチ 37(1)35-39, 2017	Case report
63	杉野裕記, 信藤真理, 田中潤, 他	整形外科	急速な椎体破壊の進行を認めた類椎化膿性脊椎炎の1例	整形外科と災害外科 66(4)674-677, 2017	Case report
64	小田大嘉, 吉村一朗, 金澤和貴, 他	整形外科	後継骨筋腱脱臼に対する観血的脱臼制動術の経験	整形外科と災害外科 66(3)545-547, 2017	Case report
65	柴田光史, 尾上 英俊	整形外科	大腿骨転子部骨折骨接合術後に骨頭下骨折をきたした1例	整形外科と災害外科 66(4), 792-795, 2017	Case report
66	土肥憲一郎, 永田純一, 浅野圭, 他	整形外科	短母指伸筋腱皮下断裂に対して suture anchor を用いた2例	整形外科と災害外科 66(1)123-124, 2017	Case report
67	小林駿介, 田中祥雅, 山本卓明	整形外科	陳旧性月状骨掌側脱臼に伴う手根管症候群の1例	整形外科と災害外科 66(3)654-666, 2017	Case report
68	川崎 英輝, 伊崎輝昌, 中山 頼秀, 他	整形外科	滑膜骨軟骨腫症を伴う変形性肩関節症に対しリバーズ型人工肩関節置換術を行った1例	整形外科と災害外科 66(3)598-601, 2017	Case report
69	工藤悠貴, 田中潤, 信藤真理, 他	整形外科	腰椎部に発生したEpidermoid Cystの1例	整形外科と災害外科 66(4):758-760, 2017	Case report
70	蒲池祐紀, 松永渉, 木下浩一, 他	整形外科	術後30年経過したセメントレス THA のカップ破損の1例	臨床と研究 94(7): 895-898, 2017	Case report
71	中山 頼秀, 前山彰, 萩尾友宣, 他	整形外科	人工膝関節置換術施行後3年後に反復性膝関節内血腫が発生した関節リウマチの1例	臨床と研究 94(8):1024-1028, 2017	Case report
72	木下浩一, 山本卓明	整形外科	変形性股関節症の診療 股関節症	臨床と研究 94(10):10-14, 2017	Review
73	柴田 陽三	整形外科	凍結肩に対する鏡視下肩関節授動術(下方関節包切離派)	関節外科 36(10):1090-1097	Review
74	山本卓明	整形外科	大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折—脊椎変形との関連を含めて—	関節外科 37(2), 2018	Review
75	塩田悦仁	リハビリテーション部	リハビリテーション用語の起源を訪ねる - Schwann cell	Journal of Clinical Rehabilitation (臨床リハ) 26(5):504-505, 2017	Review
76	塩田悦仁	リハビリテーション部	リハビリテーション用語の起源を訪ねる - Ranvier's nodule	Journal of Clinical Rehabilitation (臨床リハ) 26(10):972-973, 2017	Review
77	塩田悦仁	リハビリテーション部	リハビリテーション用語の起源を訪ねる - Marfan syndrome	Journal of Clinical Rehabilitation (臨床リハ) 27(3):266-267, 2018	Review
78	木下浩一, 山本卓明	整形外科	変形性股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術(前方アプローチ) [curved periacetabular osteotomy]—原法を中心に	整形外科 68(8):782-786, 2017	Others
79	佐伯 和彦, 木山 貴彦, 前山彰, 他	整形外科	【膝前十字靭帯損傷update-我が施設(私)のこだわり】当科における前十字靭帯再建術 膝周囲筋の評価と症例の希望より選択した自家移植腱を用いた前十字靭帯再建術	Orthopaedics 30巻9号 Page81-92(2017.09)	Others
80	金澤和貴	整形外科	(よくある足部外傷)距骨骨折の診断と治療	整形外科Surgical Technique 7(3):26-32, 2017	Others

小計20

81	吉村一朗	整形外科	鏡視下足関節内遊離体摘出時のトラブル	整形外科Surgical Technique 7:95-97	Others
82	吉村一朗	整形外科	距骨骨軟骨損傷に対する鏡視下骨髄刺激法	整形外科最小有限手術ジャーナル 83:34-38	Others
83	吉村一朗	整形外科	足関節前方インピンジメントに対する鏡視下手術	関節外科4月増刊号 36:168-171	Others
84	西田美穂、大慈弥裕之	福岡大学博多駅クリニック	老人性色素斑の標準的レーザー治療	皮膚科医・形成外科医のためのレーザー治療スタンダード 確かな治療を行うための知っておくべき知識と正しい手技 (羊土社)・119-130、	Others
85	洲上淳太、大慈弥裕之	福岡大学病院形成外科	乳房再建術(ティッシュ・エキスパンダー、乳房インプラントによる一次二期再建)	OPE NURSING2017 臨時増刊 形成外科の手術看護パーフェクトマニュアル(MCメディカ出版)・175-186、2017	Others
86	Mihara M,Hara H,Kawakami Y,et al.	福岡大学医学部形成外科学	Multi-site lymphatic venous anastomosis using echography to detect suitable subcutaneous vein in severe lymphedema patients	J Plast Reconstr Aesthet Surg Feb;71(2):e1-e7,2018	Original Article
87	Jimi S,Kimura M,De Francesco F,et al.	福岡大学医学部形成外科学	Acceleration Mechanisms of Skin Wound Healing by Autologous Micrograft in Mice	Int J Mnf Sci Aug 2;18(8).2017	Original Article
88	Jimi S,Miyazaki M,Takata T,et al.	福岡大学医学部形成外科学	Increased drug resistance of mupirocin-resistant Staphylococcus aureus biofilms formed on a mouse dermal ship model	J Med Microbiol 66:542-550, 2017	Original Article
89	Mihara M,Hara H,Zhou HP,et al.	福岡大学医学部形成外科学	Lymphatic Venous Anastomosis Can Release the Lymphedema-Associated Pain of Upper Limb after Breast Cancer Treatment	Journal Reconstructive Microsurgery Open 3(1):e1-e7, 2017(オンライン)	Original Article
90	Akita S	福岡大学病院	Adipose-Derived Stem Cells and Vascularized Lymph Node Transfers Successfully Treat Mouse Hindlimb Secondary Lymphedema by Early Reconnection of the Lymphatic System and Lymphangiogenesis	Plast Reconstr Surg. 2017 Jul 15. 140(5):762e-763e	Letter
91	Doi R, Tsuchiya T, Mitsutake N,et al.	長崎大学病院	Transplantation of bioengineered rat lungs recellularized with endothelial and adipose-derived stromal cells	Sci Rep. 2017 Aug 16;7(1):8447	Review
92	Akita S, Hayashida K, Yoshimoto H, et al.	福岡大学病院 長崎大学病院	Novel Application of Cultured Epithelial Autografts (CEA) with Expanded Mesh Skin Grafting Over an Artificial Dermis or Dermal Wound Bed Preparation	Int J Mol Sci. 2017 Dec 25;19(1) (オンライン)	Original Article
93	Saijo H, Kilpadi DV, Akita S	福岡大学病院 長崎大学病院	Evaluation of the use of recombinant human basic fibroblast growth factor in combination with negative pressure wound therapy with instillation and dwell time in porcine full-thickness wound model	Wound Repair Regen. 2017 Nov;25(6):972-975	Original Article
94	Akita S, Hayashida K, Takaki S, et al.	福岡大学病院	The neck burn scar contracture: a concept of effective treatment	Burns Trauma 467-474, 2017	Review
95	秋田定伯、大慈弥裕之、高木誠司、他	福岡大学病院	日本における未承認のAdvanced Wound Care Products	PEPARS 126, 71-76, 2017	Review
96	Abe H, Miki K, Kobayashi H et al.	脳神経外科	Unilateral Trans-cerebellomedullary Fissure Approach for Occipital Artery to Posterior Inferior Cerebellar Artery Bypass during Aneurysmal Surgery	Neurol Med Chir 57(6): 284 - 291,2017	Original Article
97	Kobayashi H, Hamasaki M, Morishita T et al.	脳神経外科、病理	Analysis of Evolving Clinicopathological Features of Metastatic Brain Tumors Over 30 Years of Surgical Management	Anticancer Research 37(3):3969 -3974, 2017	Original Article
98	Ogawa S, Ogata T, Shimada H et al.	脳神経外科、神経内科、臨床検査部	Acceleration of blood flow as an indicator of improved hemodynamics after indirect bypass surgery in Moyamoya disease	Neurology and Neurosurgery 160:92 - 95, 2017	Original Article
99	Watanabe J, Ogata T, Higashi T et al.	リハビリテーション部、神経内科、脳神経外科	Cognitive Change 1 Year after CEA or CAS Compared with Medication	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 26(6):1297-1305,2017	Original Article
100	Goto K, Morishita T, Kamada S et al.	リハビリテーション部、脳神経外科	Feasibility of rehabilitation using the single-joint hybrid assistive limb to facilitate early recovery following total knee arthroplasty: A pilot study.	ASSISTIVE TECHNOLOGY 29(4):197-201,2017	Original Article

小計20

101	Saita K, Morishita T, Hyakutake K et al.	リハビリテーション部、脳神経外科	Combined therapy using botulinum toxin A and single-joint hybrid assistive limb for upper-limb disability due to spastic hemiplegia	Journal of the Neurological Sciences 373:182 - 187,2017	Original Article
102	Morishita T, Hilliard JD, Okun MS et al.	脳神経外科	Postoperative Lead Migration in Deep Brain Stimulation Surgery: Incidence, Risk Factors, and Clinical Impact	Plos One, 12(9), e0183711, 2017	Original Article
103	Morishita T, Higuchi M, Tsuboi Y, et al.	脳神経外科、神経内科	Delayed Onset Eye Opening Apraxia due to Progression of Brain Atrophy following Subthalamic Nucleus Deep Brain Stimulation: A Case Report	NMC Case Report Journal4(1):1-3,2017	Case report
104	Koga M, Yoshida Y, Imafuku S	皮膚科	Prevalence of Obesity in Japanese Individuals with Neurofibromatosis 1.	FUKUOKA ACTA MEDICA. 2017 Apr;108:139-144	Review
105	Miyachi M, Ihara H, Imafuku S.	皮膚科	Incidence of serum antibody titers against varicella zoster virus in Japanese patients with herpes zoster.	J Dermatol. 2017 June;44:656-659	Original Article
106	Shibayama Y, Namikawa K, Sone M, et al.	皮膚科	Efficacy and toxicity of transarterial chemoembolization therapy using cisplatin and gelatin sponge in patients with liver metastases from uveal melanoma in an Asian population.	Int J Clin Oncol. 2017 June;22:577-584	Original Article
107	Sato E, Williams MR, Sanford JA, et al.	皮膚科	The parathyroid hormone family member TIP39 interacts with sarco/endoplasmic reticulum Ca(2+) - ATPase activity by influencing calcium homeostasis.	Exp Dermatol. 2017 Sep;26:792-797	Original Article
108	Imafuku S, Torisu-Itakura H, Nishikawa A, et al.	皮膚科	Efficacy and safety of ixekizumab treatment in Japanese patients with moderate-to-severe plaque psoriasis: Subgroup analysis of a placebo-controlled, phase 3 study (UNCOVER-1).	J Dermatol. 2017 Nov;44:1285-1290	Original Article
109	Naito R, Koga K, Masaki M, et al.	皮膚科	Multiple verrucous lesions of the feet in Waldenström macroglobulinaemia.	Clin Exp Dermatol. 2018 Jan;43:103-105	Original Article
110	Koga M, Yoshida Y, Imafuku S.	皮膚科	Clinical Characteristics of the Halo Phenomenon in Infants with Neurofibromatosis 1: A Case Series.	Acta Dermato-Venerologica. 2018 Jan;98:153-154	Case report
111	Imafuku S, Nakano A, Dakeshita H, et al.	皮膚科	Number needed to treat and costs per responder among biologic treatments for moderate-to-severe plaque psoriasis in Japan.	J Dermatolog Treat. 2018 Feb;29:24-31	Original Article
112	Ihara H, Miyachi M, Imafuku S.	皮膚科	Relationship between serum anti-varicella zoster virus antibody titer and time from onset of herpes zoster.	J Dermatol. 2018 Feb;45:189-193	Original Article
113	Kunimi Y, Koga M, Ishibashi T, et al.	皮膚科	Case of psoriatic arthritis mutilans whose finger dysfunction successfully ameliorated by surgical intervention during infliximab treatment.	J Dermatol. 2018 Mar;45:e61-e62	Case report
114	佐伯有祐	眼科	Clinical and allergological analysis of ocular manifestations of sick building syndrome	Clin Ophthalmol 11, 517-522, 2017	Original Article
115	Sasaki H, Tamura K, Naito Y, et al.	腫瘍・血液・感染症内科	Patient perceptions of symptoms and concerns during cancer chemotherapy: 'affects my family' is the most important.	Int J Clin Oncol. 22(4): 793-800, 2017 August.	Original Article
116	Tanaka T, Yamada H, Kuroki M, et al.	腫瘍・血液・感染症内科	A modified adenovirus vector-mediated antibody screening method identifies EphA2 as a cancer target.	Transl Oncol. 10(4): 476-484, 2017 August.	Original Article
117	Tanaka T, Ueno M, Nakashima Y, et al.	腫瘍・血液・感染症内科	Retrospective analysis of the efficacy and safety of eribulin therapy for metastatic breast cancer in daily practice.	Thorac Cancer 8(5): 523-529, 2017 September.	Original Article
118	Hamanoue N., Tanabe M., Tanaka T. et al.	内分泌・糖尿病内科	A higher score on the Aging Males' Symptoms scale is associated with insulin resistance in middle-aged men.	Endocr J 64:521-530, 2017	Original Article
119	Iwaya C., Nomiya T., Komatsu S. et al.	内分泌・糖尿病内科	Exendin-4, a Glucagonlike Peptide-1 Receptor Agonist, Attenuates Breast Cancer Growth by Inhibiting NF-kappaB Activation.	Endocrinology 158:4218-4232, 2017	Original Article
120	Akehi Y., Hashimoto Y., Meren J.	内分泌・糖尿病内科	Postpartum hypothalamic adrenal insufficiency with remission: A rare case.	Endocr J 64:157-162, 2017	Case report

121	升谷 耕介	腎臓膠原病内科	Histological analysis in ABO-compatible and -incompatible kidney transplantation by performance of 3- and 12-month protocol biopsies.	Transplantation, 2017	Original Article
122	Fukae J, Fujioka S, Yanamoto S et al.	神経内科	Serum uric acid level is linked to the disease progression rate in male patients with multiple system atrophy.	Clin Neurol Neurosurg. 2017 Apr 3;158:15-19	Original Article
123	Fujioka S, Curry SE, Kennelly KD	神経内科	Occurrence of Crohn's disease with Parkinson's disease.	Parkinsonism Relat Disord. 2017 Apr;37:116-117	Original Article
124	Saita K, Ogata T, Watanabe J et al.	神経内科	Contralateral Cerebral Hypometabolism After Cerebellar Stroke: A Functional Near-Infrared Spectroscopy Study.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2017 Apr;26(4):e69-e71	Original Article
125	Mishima T, Fukae J, Fujioka S et al.	神経内科	The Prevalence of Constipation and Irritable Bowel Syndrome in Parkinson's Disease Patients According to Rome III Diagnostic Criteria.	Parkinsons Dis. 2017 Jan 30	Original Article
126	Mishima T, Kasanuki K, Koga S et al.	神経内科	Reduced orexin immunoreactivity in Perry syndrome and multiple system atrophy.	Relat Disord. 2017 J Parkinsonism Relat Disord. 2017 Jun 12 Jun 12	Original Article
127	Mishima T, Koga S, Lin WL et al.	神経内科	Perry Syndrome: A Distinctive Type of TDP-43 Proteinopathy	J Neuropathol Exp Neurol. 2017 Aug 1;76(8):676-682	Original Article
128	Ouma S, Fukae J, Fujioka S et al.	神経内科	Wearing-off Phenomenon in Parkinson's Disease in Japan: A Cross-sectional, Multicenter Study.	Intern Med. 2017;56(15):1961-1966	Original Article
129	Ogata T, Matsuo R, Kiyuna F et al.	神経内科	Left Atrial Size and Long-Term Risk of Recurrent Stroke After Acute Ischemic Stroke in Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation.	JAHA 2017;6:e006402	Original Article
130	Mishima T, Fujioka S, Tomiyama H et al.	神経内科	Establishing diagnostic criteria for Perry syndrome.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2017 Oct 31	Original Article
131	Ouma S, Suenaga M, Bölköbasi Hatip FF et al.	神経内科	Serum vitamin D in patients with mild cognitive impairment and Alzheimer's disease.	Brain Behav. 2018 Feb 9;8(3)	Original Article
132	Ishii F, Yoshida Y, Yamauchi Y et al.	消化器外科	Hepatectomy for Liver Metastases of Colorectal Cancer After Adoptive Chemoimmunotherapy Using Activated $\alpha\beta$ T-cells	ANTICANCER RESEARCH 37:3933-3939, 2017	Original Article
133	Yoshida Y, Naito M, Yamada T et al.	消化器外科	Clinical Study on the Medical Value of Combination Therapy Involving Adoptive Immunotherapy and Chemotherapy for Stage IV Colorectal Cancer (COMVI study)	ANTICANCER RESEARCH 37:3941-3946, 2017	Original Article
134	Hasegawa S, Goto S, Matsumoto T et al.	消化器外科	A Multicenter Phase 2 Study on the Feasibility and Efficacy of Neoadjuvant Chemotherapy Without Radiotherapy for Locally Advanced Rectal Cancer	Ann Surg Oncol. 24(12):3587-3595, 2017	Original Article
135	Yoshida Y, Aisu N, Kojima D et al.	消化器外科	Phase II study on early start of chemotherapy after excising primary colorectal cancer with distant metastases (Pearl Star02)	Ann Gastroenterol Surg. 1(3):219-225, 2017	Original Article
136	Shimaoka H, Takeno S, Maki K et al.	消化器外科	A cytokine signal inhibitor for rheumatoid arthritis enhances cancer metastasis via depletion of NK cells in an experimental lung metastasis mouse of colon cancer	ONCOLOGY LETTERS 14:3019-3027, 2017	Original Article
137	Takeno S, Yamashita K, Noritomi T et al. ※equally contributed as a first author	消化器外科	Reducing Morbidity in Urgent Gastroenterologic Surgery; Propensity Score Analysis Using Triclosan-Coated Polydioxanone Sutures	Int Surg. 102:58-63, 2017	Original Article
138	Shiwaku H, Yamashita K, Hasegawa S	消化器外科	Double-scope method for creating a straight submucosal tunnel during peroral endoscopic myotomy	Digestive Endoscopy 30(2):267-268, 2018(March)	Case report
139	Hirota K, Shibata S, Shigematsu K, et al	麻酔科	Risk vessels of retropharyngeal hematoma during stellate ganglion block	Regional Anesthesia and Pain Medicine 42:778-781, 2017	Original Article
140	Chijiwa E, Shigematsu K, Iwashita K, et al	麻酔科	Ventricular fibrillation due to cardiac herniation upon emergence from general anesthesia in a patient with right completion pneumonectomy: A case report	循環制御 38/3,218-221, 2017	Case report

小計20

141	Sato S, Nakamori E, Kusumoto G, et al	麻酔科	Neurally mediated syncope during cesarean Delivery: a case report	A&A Case Reports 8(5): 96-99, 2017	Case report
142	Kyoichi Narihira, Akiko Watanabe, Hong Sheng, et al.	歯科口腔外科学	Enhanced cell killing and apoptosis of oral squamous cell carcinoma cells with ultrasound in combination with cetuximab coated albumin microbubbles	Journal of Drug Targeting 2017 <a href="http://dx.doi.org/10.1080/1061186X.2017.1367005">http://dx.doi.org/10.1080/1061186X.2017.1367005</a>	Original Article
143	Saita K, Morishita T, Arima H, et al.	リハビリテーション部	Biofeedback effect of hybrid assistive limb in stroke rehabilitation: A proof of concept study using functional near infrared spectroscopy.	PLoS ONE 13 (1): e0191361, 2018	Original Article
144	Kamada S, Saeki K, Kiyama T, et al.	リハビリテーション部	Pyoderma gangrenosum following bacterial infection of the patellar tendon	Current Orthopaedic Practice. 28(3):318-23,2017	Original Article
145	Kamada S, Shiota E, Saeki K, et al.	リハビリテーション部	Sports and physical activities of elderly patients with medial compartment knee osteoarthritis after high tibial osteotomy	Progress in Rehabilitation Medicine 2:39-44,2017	Original Article
146	Nakamura Y	福岡大学病院救命救急センター	Potential survival benefit of polymyxin B hemoperfusion in patients with septic shock: a propensity-matched cohort study.	Crit Care 2017 Jun 7;21(1):134. doi: 10.1186/s13054-017-1712-3.	Original Article
147	Irie Y	福岡大学病院救命救急センター	Macrophage-derived HMGB1 as a Pain Mediator in the Early Stage of Acute Pancreatitis in Mice: Targeting RAGE and CXCL12 / CXCR4 Axis	J Neuroimmune Pharmacol Published online:28 July 2017 DOI 10.1007/s11481-017-9757-2 2017; Dec;12(4):693-707	Original Article
148	Hoshino K	福岡大学病院救命救急センター	Usefulness of plasminogen activator inhibitor-1 as a predictive marker of mortality in sepsis	J Intensive Care 2017 Jul 11;5:42. doi: 10.1186/s40560-017-0238-8. eCollection 2017	Original Article
149	Nakamura Y	福岡大学病院救命救急センター	Fibrinogen level on admission is a predictor for massive transfusion in patients with severe blunt trauma: Analyses of a retrospective multicentre observational study	Injury 2017 Mar;48(3):674-679.	Original Article
150	Nakamura Y	福岡大学病院救命救急センター	Adsorption of Nafamostat Mesilate on AN69ST Membranes: A Single-Center Retrospective and In Vitro Study	Ther Apher Dial 2017 Dec;21(6):620-627	Original Article
151	Hoshino K	福岡大学病院救命救急センター	Incidence of elevated procalcitonin and presepsin levels after severe trauma: a pilot cohort study	Anaesth Intensive Care 2017, 45: 5: 600-4	Original Article
152	Kawano Y	福岡大学病院救命救急センター	Efficacy of direct hemoperfusion with a polymyxin B-immobilized fiber column in miliary tuberculosis	Acute Medicine & Surgery 4(3):311-315, 2017.07	Original Article
153	Hoshino K	福岡大学病院救命救急センター	Soluble fibrin is a useful marker for predicting extracorporeal membrane oxygenation circuit exchange because of circuit clots.	J Artif Organs. 2018 Jan 30. doi: 10.1007/s10047-018-1021-x 2018 Jun; 21(2):196-200	Original Article
154	Ishikura H	福岡大学病院救命救急センター	Trauma-induced coagulopathy and critical bleeding: the role of plasma and platelet transfusion	Journal of Intensive Care 5:2 DOI 10.1186/s40560-016-	Review
155	川野 恭雅	福岡大学病院救命救急センター	敗血症の新定義に基づいたバイオマーカーの有用性の検討	エンドトキシン血症救命治療研究会誌 21(1):48-56, 2017	Original Article
156	稲富 香織 他	総合周産期母子医療センター、小児外科	胆嚢低形成および肝外胆道狭小化を伴った Alagille症候群の1例	小児外科(0385-6313) (Vol.49(11) 1169~1173,2017)	Case report
157	増井 信太	総合診療部	Maoto, a Traditional Japanese Herbal Medicine, Inhibits Uncoating of Influenza Virus	Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine Vol2017, Article ID 1062065, 12pages	Original Article
158	Kinoshita Y, Hida T, Hamasaki M, Matsumoto S, Sato A, Tsujimura T, Kawahara K, Hiroshima K, Oda Y, Nabeshima K.	病理学講座	A combination of MTAP and BAP1 immunohistochemistry in pleural effusion cytology for the diagnosis of mesothelioma.	Cancer Cytopathol, 126(1): 54-63, 2018	Original Article
159	Hamasaki M, Chang KHF, Nabeshima K, Tauchi-Nishi PS.	病理部	Intraoperative Squash and Touch Preparation Cytology of Brain Lesions Stained with H+E and Diff-Quik™: A 20-Year Retrospective Analysis and Comparative Literature Review.	Acta Cytol, 62(1):44-53, 2018	Original Article
160	Kinoshita Y, Watanabe K, Ishii H, Kushima H, Fujita M, Nabeshima K.	病理学講座	Significant increase of lymphatic vessels in pleuroparenchymal fibroelastosis.	Histopathology, Apr 19, 2018	Original Article



161	西中村憲輔・松本慎二・相知優子・小島勝巳・大石朋子・鍋島一樹	病理部	孤立性線維性腫瘍/血管周肉腫の細胞像—腫瘍との比較検討—	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌, 49:21-25, 2018	Original Article
162	Hida T, Hamasaki M, Matsumoto S, Sato A, Tsujimura T, Kawahara K, Iwasaki A, Okamoto T, Oda Y, Honda H, Nabeshima K.	病理学講座	Immunohistochemical detection of MTAP and BAP1 protein loss for mesothelioma diagnosis: Comparison with 9p21 FISH and BAP1 immunohistochemistry.	Lung Cancer, 104: 98-105, 2017	Original Article
163	Abe S, Yamashita SI, Miyahara SO, Wakahara J, Yamamoto L, Mori R, Imamura N, Yoshida Y, Waseda R, Hiratsuka M, Shiraishi T, Nabeshima K, Iwasaki A.	病理学講座	Prognostic Significance of BMJ-1 But Not MEL-18 Expression in Pulmonary Squamous Cell Carcinoma.	Anticancer Res, 37(4):1923-1929, 2017	Original Article
164	Yoshimura M, Kinoshita Y, Hamasaki M, Matsumoto S, Hida T, Oda Y, Nabeshima K.	病理部	Diagnostic application of BAP1 immunohistochemistry to differentiate pleural mesothelioma from metastatic pleural tumours.	Histopathology, 71(6):1011-1014, 2017	Original Article
165	Aoki M, Koga K, Hamasaki M, Egawa N, Nabeshima K.	病理学講座	Emmprin, released as a microvesicle in epithelioid sarcoma, interacts with fibroblasts.	Int J Oncol, 50(6):2229-2235, 2017	Original Article
166	木下義晃, 渡辺憲太郎, 石井寛, 吉村雅代, 濱崎慎, 鍋島一樹	病理学講座	肺癌を合併したIdiopathic pleuroparenchymal fibroelastosisの1例.	診断病理, 35: 66-71, 2018	Case report
167	相知優子, 松本慎二, 濱崎慎, 三橋泰仁, 小島勝巳, 大石朋子, 西中村憲輔, 竹下盛重, 鍋島一樹	病理部	類粘膜に発生した充実型腺様囊胞癌の1例.	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌, 49:85-90, 2018	Case report
168	Koga K, Nakaura J, Koga M, Imafuku S, Nabeshima K.	病理学講座	Pigmented epidermotropic metastasis from breast carcinoma.	J Dermatol, 44(12): 1414-1416, 2017	Case report
169	林博之, 藤井香英江, 河野健太郎, 境昌宏, 原田さやか, 河内茂人, 桃崎征也, 竹下盛重, 鍋島一樹	病理学講座	急性リンパ性白血病の抗がん剤腹腔内投与による薬剤性中枢神経障害を起し、膜帯血移植後に播種性トキソプラズマ症で呼吸不全をきたした症例.	病理と臨床, 35(4): 367-374, 2017	Case report
170	Miyazaki M, Aoki M, Oba S, Sakata T, Nakagawa T, Nabeshima K.	病理学講座	A rare case of dedifferentiated liposarcoma of the sinonasal cavity: A case report.	Mol Clin Oncol, 7(4):539-542, 2017	Case report
171	松本慎二, 鍋島一樹	病理部	術中迅速凍結標本作成のコツ-4. 脳外科領域-	Medical Technology, 46:652-660, 2018	Review
172	鍋島一樹	病理部	病理診断に直結した組織学. V. 頭頸部. 3. 上気道(鼻腔, 副鼻腔, 喉頭).	病理と臨床 随時増刊号, 35: 109-122, 2017	Review
173	鍋島一樹, 木下義晃, 吉村雅代	病理部	病理分類(WHO分類第4版, 肺癌取扱い規約第8版)	最新医学, 2017	Review
174	鍋島一樹, 木下義晃, 吉村雅代	病理部	病理分類(WHO分類第4版, 肺癌取扱い規約第8版). In 呼吸器腫瘍. 中西洋一 企画.	最新医学社, 大阪, pp. 22-31, 2017	Others
175	吉村雅代, 鍋島一樹, 木下義晃, 松本慎二, 濱崎慎, 樋田知之	病理部	悪性胸腺中皮腫と癌の転移との鑑別におけるBAP1免疫組織化学の有用性. In 廣島健三編.	平成28年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務(FISH法等を用いた中皮腫診断法の開発に関する調査)報告書, p21-30, 2017	Others
176	鍋島一樹, 木下義晃, 樋田知之, 松本慎二, 濱崎慎 ほか	病理部	BAP1, MTAP免疫染色の有用性について—中皮腫組織・セルブロックにおける検討. In 廣島健三編	平成28年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務(FISH法等を用いた中皮腫診断法の開発に関する調査)報告書, p39-51, 2017	Others
177	Komaki T, Miura S, Arimura T, et al.	福岡大学病院臨床検査部	The Change in Body Weight During Hospitalization Predicts Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure.	J Clin Med Res, 9(3): 200-206, 2017	Original Article
178	Shimada H, Ogata T, Takano K, et al.	臨床検査部, 神経内科, 脳神経外科	Evaluation of the Time-Dependent Changes and the Vulnerability of Carotid Plaques Using Contrast-Enhanced Carotid Ultrasonography	Journal of stroke and Cerebrovascular Disease 27(2):321-325, 2018	Original Article
179	Masanobu Uchiyama, Toshitaka Goto, Miho Ueno, et al.	薬剤部 腫瘍・血液・感染症内科	アルブミン懸濁型パクリタキセル注射剤による末梢神経障害増悪を長時間投与で回避できた1例	癌と化学療法, 44, 517-519(2017)	Case report
180	Takalumi Nakano, Tomomi Nakamura, Yoshihiko Nakamura, et al.	薬剤部	テイコプラニン併用がワルファリン服用感染症患者のPT-INRに及ぼす影響	YAKUGAKU ZASSHI, 137, 909-916(2017)	Original Article

小計20

181	Yuki Yasutaka, Shinsuke Fujioka, Shibaguchi Hiroto, et al.	薬剤部 神経内科	ロシゴテン貼付剤による皮膚障害に対する皮膚外用剤の有効性評価	BRAIN and NERVE, 69, 1047-1053 (2017)	Original Article
182	Takamitsu Ogata, Susumu Kaneshige, Koichi Matsuo, et al.	薬剤部	電子カルテ記録に基づいたアロプリノール製剤の母集団薬動態解析	医療薬学, 43, 630-639 (2017)	Original Article
183	Mitsuhiro Kamada, Akiko Kubota, Yuki Shikishima, et al.	薬剤部 内分泌・糖尿病内科	週1回型GLP-1受容体作動薬デュラグルチドにおける切り替え時の有効性と安全性の評価	くすりと糖尿病, 6, 193-200 (2017)	Original Article
184	Masanobu Uchiyama, Miho Ueno, Yasushi Takamatsu, et al.	薬剤部 腫瘍・血液・感染症内科	Methotrexate髄腔内投与での副作用発現症例における併用薬の影響	YAKUGAKUZASSHI, 138, 111-115 (2018)	Original Article
185	Akane Nagasato, Masatoshi Nakamura, Hidetoshi Kamimura, et al.	薬剤部	未熟児無呼吸発作に対するカフェインとアミノフィリンの有効性及び安全性に関する比較検討	YAKUGAKUZASSHI, 138, 237-242 (2018)	Original Article
186	Masato Hamabashiri, Yukari Ono, Yuki Yasutaka, et al.	薬剤部 腎臓膠原病内科	ヒドロキシクロキシン硫酸塩服用中に房室ブロックを発症した全身性エリテマトーデスの1症例	医療薬学, 44, 141-146 (2018)	Case report

小計6  
合計186

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、突如上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限り。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	北島研、藤見幹太、藤田政臣、他	循環器内科	心不全患者に対する長期的な外来心臓リハビリテーションが奏効した2症例	臨床と研究 94(12):109-113	Case report
2	坂本摩耶、藤見幹太、北島研、他	循環器内科	心臓外科手術目的にてハートセンターへ入院した患者への心理的支援	臨床と研究 95(3):71-75	Case report
3	坂本摩耶、三浦伸一郎、藤見幹太、他	循環器内科	心臓リハビリテーション実施患者への心理的支援の試み	臨床と研究 94(1):109-112	Case report
4	井手元良彰、三浦伸一郎、朝啓二郎	循環器内科	食餌療法・禁煙・生活指導の実践	診断と治療のABC 狭心症 229-230	Review
5	小川正浩	循環器内科	心電図診断スキルアップ	循環器ジャーナル 心電図診断スキルアップ	Review
6	小川正浩	循環器内科	完全皮下埋込み型除細動器「EMBLEM™」	日本循環制御医学会 循環制御 38(1):62-66	Review
7	小川正浩	循環器内科	不整脈診療-ずっと疑問-まだ疑問 心不全と心房細動とβ遮断薬	循環器ジャーナル 65(3):409-415	Review
8	朝啓二郎、天野高志	循環器内科	震災時における学会の役割	Heart View 21(13):80-85	Review
9	藤見幹太、杉原充、濱之上豊也、他	循環器内科	重症下肢虚血に対する和温療法を中心とした心リハビリテーションの取り組み	心臓リハビリテーション 23(2・3・4):132-138	Review
10	今泉聡、朝啓二郎	循環器内科	脂質異常症	循環器疾患 最新の治療 2018-2019 403-406	Review
11	木下義典、渡辺憲太郎、石井寛、他	呼吸器内科	肺癌を合併したpleuroparenchymal fibroelastosisの1例	診断病理 2018;35(1):66-71	Case report
12	串間尚子、藤田昌樹	呼吸器内科	【COPDと喘息の最新治療】上手な禁煙指導(解説/特集)	臨床と研究 2017;94(11):1396-1401	Review
13	渡辺憲太郎	呼吸器内科	わが国の結核の現況	臨床と研究 2017;94(8):1044-1050	Review
14	渡辺憲太郎	呼吸器内科	びまん性肺疾患と閉塞性換気障害	Modern Physician 2017;37(9):1006	Review
15	渡辺憲太郎	呼吸器内科	特発性間質性肺炎 鑑別診断・病態の亜型をどう見分けるか	Modern Practice 2017;34(4):587-593	Review
16	石井寛、串間尚子、渡辺憲太郎、他	呼吸器内科	Pleuroparenchymal fibroelastosisの肺門挙上と気管偏位に関する検討	難治性疾患政策事業 びまん性肺疾患に関する調査研究 平成28年度研究報告書 2017;195-198	Original Article
17	渡辺憲太郎、石井寛、串間尚子、他	呼吸器内科	PPFEの診断基準策定 ～東京びまん性肺疾患研究会の症例検討を踏まえて	難治性疾患政策事業 びまん性肺疾患に関する調査研究 平成28年度研究報告書 2017;107-111	Original Article
18	渡辺憲太郎、小倉高志	呼吸器内科	気腫合併肺線維症(Combined pulmonary fibrosis and emphysema: CPFE)の診断基準の作成	難治性疾患政策事業 びまん性肺疾患に関する調査研究 平成28年度研究報告書 2017;113-114	Original Article
19	大串祐馬、後藤玲央、吉良健太郎他	福岡大学 医学部 精神医学教室	向精神薬以外の薬物療法	精神科 2017.4 Vol.30 No.4 : 277-279	Review
20	大串祐馬、内田豊樹、吉良健太郎他	福岡大学 医学部 精神医学教室	脳血管障害に伴うせん妄の実践的対応	Modern Physician 2017.4 Vol.37 No.4: 351-353	Review

小計20

21	原田康平、川崎弘昭	福岡大学 医学部 精神医学 教室	なかなか回復しないうつ病を診ている治療者と患者へのワンポイントアドバイス	臨床精神医学 2017.5 46(5) : 649-650	Review
22	吉良健太郎、 後藤玲央、 大串祐馬 他	福岡大学 医学部 精神医学 教室	抗うつ薬の長期投与の影響	臨床精神薬理 2017.9 20 : 1019-1024	Review
23	原田康平、 川崎弘昭	福岡大学 医学部 精神医学 教室	うつ病に対する抗不安薬の併用	臨床精神薬理 2017.9 20 : 1075-1078	Review
24	飯田仁志、 尾籠晃司、 川崎弘昭	福岡大学 医学部 精神医学 教室	意識障害を来す疾患の診療 精神科でみられる意識障害	臨床と研究 2017.9 94(9) : 1129-1133	Review
25	尾籠晃司	福岡大学 医学部 精神医学 教室	プライマリ・ケアでできる認知症の診断と治療	Scheneller 2018.1 No.105 : 10-16	Review
26	尾籠晃司、 飯田仁志	福岡大学 医学部 精神医学 教室	レビー小体型型認知症の基礎知識のおさらい	認知症介護 2018.3 Vol.19 No.1 : 60-66	Review
27	川崎弘昭	福岡大学 医学部 精神医学 教室	日本うつ病学会・うつ病治療ガイドラインの改訂	Depression Journal 2017.4 Vol.5 No.1 : 4- 15	Others
28	川崎弘昭	福岡大学 医学部 精神医学 教室	私のリエゾン・コンサルテーション経験と今後の精神医学	総合病院精神医学 2017.7 Vol.29 No.3 : 221	Others
29	川崎弘昭	福岡大学 医学部 精神医学 教室	精神医学	九大医学部同窓会誌 学資編 2017.9 第184 号 : 6-7	Others
30	川崎弘昭	福岡大学 医学部 精神医学 教室	特定機能(大学)病院におけるリエゾン精神医学の現状と課題	宮崎県精神科医会 会 誌 2017.11 第32号 : 10-12	Others
31	武藤由也 吉良健太郎 川崎弘昭	福岡大学 医学部 精神医学 教室	薬物依存症とアルコール依存症	FLKUOKA UNIVERSITY MEDICAL FESTIVAL 2017.11 37TH : 9-13	Others
32	衛藤暢明	福岡大学 医学部 精神医学 教室	自殺未遂者支援の意義	北九州市自殺対策計画 コラム 2017.5 : 65	Others
33	衛藤暢明	福岡大学 医学部 精神医学 教室	高校生の自殺予防の実際	福岡県高等学校養護教 諭研究会 あゆみ 2017.11 第25号 : 105- 132	Others
34	原田康平	福岡大学 医学部 精神医学 教室	精神療法のトレーニングにおいて精神科医が気をつけるべきこと	日本医事新報 2018.2 No.4894 : 56	Others
35	高木誠司、大慈弥裕之	福岡大学医学部形成外科 学	創傷外科治療における基本的考え 1.院内感染対策	外科系医師が知ってお くべき創傷治療のすべ て(南江堂)・57-60、 2017	Others
36	高木誠司	福岡大学医学部形成外科 学	眼瞼の外傷	眼瞼・眼窩・涙道の外 科—スグに役立つ基本 知識—高度技術(克誠 堂出版)・4(60)445- 452、2017	Others
37	Takagi S, Ohjimi H	福岡大学医学部形成外科 学	Sternum Elevators for Minimal Access Pectus Excavatum Repair	Chest Wall Deformities (Springer)・467-474、 2017	Others
38	高木誠司、秋田定伯、大慈弥裕之	福岡大学医学部形成外科 学	特集:乳幼児の健康指導— これまでとこれから—専門医受診を勧めたい 形成外科疾患—頭蓋変形・埋没耳・多指症・ あざなど—	外来小児科・Vol(3)303- 307、2017	Review
39	Sakata N, Wada H, Minematsu N, Teratani H, Tashiro T,	病理学	Penetrating atherosclerotic ulcer possibly originating from a saccular ductus arteriosus aneurysm: a case report	Med. Bull. Fukuoka Univ.; 23(2)92-96 May, 25, 2017	Original Article
40	寺谷 裕充、田代 忠、和田 秀一、松村 仁、峰松 紀 年、神谷 信次、助弘 雄 太、山田 英明、藤井 満、 伊東 千早	心臓血管外科	びまん性左前下行枝狭窄病変に対するCABG	日本冠疾患学会雑誌; 23(2)92-96 May, 25, 2017	Original Article

小計20

41	大住真敬、藤井滿、助弘雄太、森重徳継、伊東啓行	心臓血管外科	特集:進化した大動脈基部置換術 Stanford A型急性大動脈解離に対する基部再建術の手術成績	胸外科;71(1)31-36Jan,2018	Original Article
42	佐々木諒、山口和記、今泉敏史、他	皮膚科	脊索腫の皮膚転移の1例	西日本皮膚科. 2017 Apr;79:167-170	Case report
43	古賀文二、今福信一	皮膚科	蒙古斑との境界部にhaloを呈した巨大カフエオレ斑の幼児例	日本レックリングハウゼン病学会雑誌. 2017 Apr; 8:50-51	Case report
44	鈴木祥子、古賀文二、今福信一	皮膚科	<臨床例>乾癬様の臨床像を呈した川崎病	皮膚病診療. 2017 May;39:507-510	Case report
45	伊藤宏太郎、今福信一	皮膚科	[接触皮膚炎-2017] <臨床例>ジェルネイルによる接触皮膚炎	皮膚病診療. 2017 July;39:751-754	Case report
46	園見侑花、古賀文二、正木沙織、他	皮膚科	限局性に浸潤性紅斑を呈した急性骨髄性白血病の皮膚浸潤	西日本皮膚科. 2017 Aug;79:367-370	Case report
47	前村純美、古賀文二、鎮田響子、他	皮膚科	診断に苦慮したTrichophyton tonsuransによる集簇性毛包炎型体部白癬の小児例	西日本皮膚科. 2017 Aug;79:376-380	Case report
48	清水裕毅、伊藤宏太郎、古賀文二、他	皮膚科	183ヵ所のタカサゴキラマダニ刺症後に環状紅斑を続発した1例	西日本皮膚科. 2017 Aug;79:349-352	Case report
49	筒井啓太、古賀文二、古賀佳織、他	皮膚科	潰瘍病変に対してベキサロテン投与が有効であった顔状息肉症の1例	Skin Cancer. 2018 Jan;32:192-196	Case report
50	佐々木諒、立川量子、山口和記、他	皮膚科	胆石症が誘因と考えられたアナフィラクトイド紫斑病の1例	西日本皮膚科. 2018 Feb;80:20-24	Case report
51	村尾玲、古賀文二、古賀佳織、他	皮膚科	肺移植患者に生じた白癬性肉芽腫の1例	西日本皮膚科. 2018 Feb;80:45-50	Case report
52	入江慎一郎、松崎洋史、溝口幹朗、田中正利	泌尿器科	新腎・泌尿器癌(下)ー基礎・臨床研究の進歩ー膀胱癌 VII.膀胱癌の検査・診断尿細胞診の新時代	日本臨床 75(Suppl 7): 155-159,2017	Review
53	松崎洋史、入江慎一郎、田中正利	泌尿器科	新腎・泌尿器癌(下)ー基礎・臨床研究の進歩ー陰茎癌 IV. 陰茎癌の治療病期別除茎癌治療の現況: 概論	日本臨床 75(Suppl 7): 513-518,2017	Review
54	松岡弘文、田中正利	泌尿器科	小児における気膀胱下Cohen手術は標準法となり得るか	西日本泌尿器科 79(9): 416-422,2017	Review
55	田中正利、古畑隆三郎	泌尿器科	特集 性感染症ー今、何が問題か 淋菌感染症の現状と最新治療	日本医師会雑誌 146(12): 2480-2483,2018	Review
56	Miyamoto S, Yotsumoto F, et al.	産婦人科	BK-UM in patients with recurrent ovarian cancer or peritoneal cancer: a first-in-human phase-I study	BMC Cancer DOI 10.1186/s12885-017-3071-5, 2017	Original Article
57	Fukagawa S, Miyata K, Yotsumoto F, et al.	産婦人科	MicroRNA-135a-3p as a promising biomarker and nucleic acid therapeutic agent for ovarian cancer	Cancer Sci 2017 Feb 23. doi: 10.1111/cas.13210.	Original Article
58	Fukagawa S, Miyata K, Yotsumoto F, et al.	産婦人科	Serum Heparin-binding Epidermal Growth Factor-like Growth Factor (HB-EGF) as a Biomarker for Primary Ovarian Cancer	Anticancer Res 37: 3955-3960, 2017	Original Article
59	Fukagawa S, Yotsumoto F, et al.	産婦人科	Antitumour Effects of Intravenous Administration of BK-UM, a Novel Inhibitor of HB-EGF, in Ovarian Cancer Therapy	Anticancer Res 37: 3891-3896, 2017	Original Article
60	Yotsumoto F, Fukagawa S, Miyata K, et al.	産婦人科	HB-EGF Is a Promising Therapeutic Target for Lung Cancer with Secondary Mutation of EGFR790M	Anticancer Res 37: 3825-3831, 2017	Original Article

小計20

61	Urushiyama D, Suda W, Ohnishi E, et al.	産婦人科	Microbiome profile of the amniotic fluid as a predictive biomarker of perinatal outcome	Sci Rep 2017 Sep 22;7(1):12171. doi: 10.1038 /s41598-017-11699-8.	Original Article
62	Shirota K, Itoh H, Anan H, et al.	産婦人科	A case of secondary amenorrhea caused by uterine myoma successfully treated by a combined laparoscopic and hysteroscopic approach	Gynecology and Minimally Invasive Therapy 6:49-50, 2017	Case report
63	倉員正光、村田将春、宮本新吾	産婦人科	Twin Anemia-Polycythemia Sequenceの供血児死亡後の受血児に胎児輸血した一症例	日本産婦人科・新生児血液学会誌 27(1):36-37, 2017	Case report
64	橋 正剛、城田京子、柳瀬敏彦	産婦人科	甲状腺機能異常×女性不妊	薬局 68:329-333, 2017	Review
65	城田京子、伊東裕子、宮本新吾	産婦人科	効果的なART施設への紹介	産科と婦人科 84:340-344, 2017	Review
66	四元秀典、宮本新吾	産婦人科	腹膜播種性転移のがん微小環境と分子メカニズム	先端医療シリーズ48 臨床医のための最新産科婦人科 240-243, 2017	Review
67	Itoh H, Mogami H, Nemer LB, et al.	産婦人科	Endometrial stromal cell attachment and matrix homeostasis in abdominal wall endometriomas	Human Reproduction 33:280-291, 2018	Original Article
68	Araki R, Urushiyama D, Kiyoshima C, et al.	産婦人科	Clinical Significance of Preterm Fetal Cardiotocography in Severe Fetal Acidemia	Med Bull Fukuoka Univ 45:13-21, 2018	Original Article
69	平川豊文、南 星旭、阿南春分、他	産婦人科	リボソーム化ドキソルピシン長期投与後に発症した舌癌の一例	日本婦人科腫瘍学会雑誌 36:19-24, 2018	Case report
70	吉川賢一、南 星旭、平川豊文、他	産婦人科	子宮腺筋症から発生したと考えられる子宮体癌の一例	福岡産科婦人科学会雑誌 41:22-26, 2018	Case report
71	城田京子、伊東裕子、宮本新吾	産婦人科	がん性腹膜炎の新規治療	日本臨床増刊号 76suppl 2:683-688, 2018	Review
72	Miyazaki M, Aoki M, Oba S, et al.	耳鼻咽喉科	A rare case of dedifferentiated liposarcoma of the sinonasal cavity:A case report	Molecular and Clinical oncology 7:539-542	Case report
73	Mihashi Y, Mizoguchi M, Takamatsu Y, et al.	耳鼻咽喉科	C-MYC and Its Main Ubiquitin Ligase, FBXW7, Influence Cell Proliferation and Prognosis in Adult T-cell Leukemia	Lymphoma American Journal of Surgical Pathology 41(8):1139-1149	Original Article
74	Nishi K, Sakata T, Shirasawa S, et al.	耳鼻咽喉科	Apremilast Induces Apoptosis of Human Colorectal Cancer Cells with Mutant KRAS	Anticancer Reserch 37(7):3833-3839	Original Article
75	Nishi K, Luo H, Sakata T, et al.	耳鼻咽喉科	An Alpha-kinase 2 Gene Variant Disrupts Filamentous Actin Localization in the Surface Cells of Colorectal Cancer Spheroids.	Anticancer Reserch 37(7):3855-3862	Original Article
76	打田義則、上野哲子、妻鳥敬一郎、他	耳鼻咽喉科	陈旧性側頭骨骨折に迷路気腫を伴う外リンパ瘻を生じた1例	耳鼻と臨床63(4):111-117	Case report
77	高野浩一	放射線科	MRIによる血管周囲腔の体積計測 初期臨床経験	映像情報Medical 49(6):21-26:2017	Original Article
78	長松健一	放射線部	前立腺癌の強度変調放射線治療における副作用低減に向けた治療前cone-beam computed tomography画像を利用したリスク臓器の線量評価	臨床放射線62(10):1293-1302:2017	Original Article
79	吉濱研吾	放射線科	Aquilion ONEを用いた腹部画像診断 一腹部サブトラクション:平衡相への応用	INNERVISION32(5):18-19:2017	Others
80	神宮綾多郎	放射線部	MRI最新技術(DV26)の初期使用経験	Rad Fan15(10):27-30:2017	Others

小計20

81	吉満研吾	放射線科	消化器領域の改訂ポイント	臨床放射線82(8): 1027-1031:2017	Others
82	青木道郎	放射線部	DRL比較のためのデータ抽出～具体的手順 とそのポイント～	映像情報Medical49 (13): 65-70:2017	Others
83	長町茂樹	放射線部	③ FDG-PET/CT-治療効果判定 PERCIST	核医学融合画像-基礎 と臨床 西村恒彦(編) p 112-115 金原出版 2017	Others
84	長町茂樹	放射線部	④ FDG-PET/CT-治療効果判定悪性リンパ 腫 Revised Cheson関連	核医学融合画像-基礎 と臨床 西村恒彦(編) p 112-115 金原出版 2017	Others
85	吉満研吾	放射線科	Part II 臨床編:検査の実際と読影の基本 9. 胆道	最新Body CT診断-検査 の組み立てから読影 まで(編)栗井和夫、陣 崎雅弘p229-262、(株) メディカル・サイエンス・ インターナショナル(東 京)2017	Others
86	野々熊真也	放射線部	猫ひっかき病(Cat scratch disease)の1例	核医学症例検討会症例 集39(1):5-6:2017	Case report
87	吉満研吾	放射線科	腹部感染症の画像診断update 序説	画像診断38(1): 7:2017	Others
88	吉満研吾	放射線科	書評: 腹部血管画像解剖アトラス 衣袋健司 著	週刊 医学界新聞第 3265号2018	Others
89	Sasaki H, Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	ステロイド療法の効果的な使い方 血液疾患	月刊 臨床と研究 94(7): 49-52, 2017.7.20	Review
90	Mogi A, Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	リツキシマブを投与中の悪性リンパ腫患者	薬局 68(6): 91-95, 2017.5	Review
91	Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	多発性骨髄腫に対する各種proteasome inhibitorの合理的な使い分け	血液内科 75(1): 82-87, 2017.7.28	Review
92	Sasaki H, Takamatsu Y.	腫瘍・血液・感染症内科	高齢者の造血器腫瘍治療のリスクアセスメント	癌と化学療法 45(1): 16-19, 2018.1.15	Review
93	Takata T.	腫瘍・血液・感染症内科	深在性真菌症を疑うべき状況とそのアプ ローチ 特集 真菌症診療-深在性から表在性ま で	日本医師会雑誌 146(3): 477-482, 2017.6.1	Review
94	Takata T.	腫瘍・血液・感染症内科	不明熱の原因となる免疫低下者における感 染症	日本内科学会雑誌 106(11): 2356-2366, 2017.11.10	Review
95	Obata Y, Takata T.	腫瘍・血液・感染症内科	一般内科でも必要!骨髄腫患者診療の注意事 項 感染症	内科 120(4): 923-927, 2017.8.1	Review
96	Yanase T., Kawanami T., Tanaka T. et al.	内分泌・糖尿病内科	Impact of metabolic disorders on prostate cancer growth: Androgen and insulin resistance perspectives.	Reprod Med Biol 16:252-257, 2017	Review
97	Fukushima A., Tanabe M., Terawaki Y. et al.	内分泌・糖尿病内科	A rare case of subacute thyroiditis simultaneously complicated by graves' disease: a case report and review of the literature.	J Endocrinol Thyroid Res 2:55595, 2017	Case report
98	Koga M, Fukuda T, Murase K, et al.	内分泌・糖尿病内科	Rare Case of Thyrotoxic Periodic Paralysis Caused by TSH-Secreting Pituitary Adenoma: Case Report and Review of the Literature.	J Endocrinol Thyroid Res 1(1): JETR.MS.ID.555551, 2017	Case report
99	Seiji Kondo, Jiro Kawashima, Katsumi Kobata, et al.	歯科口腔外科学	Oral pemphigus vulgaris: Liquid-based cytological findings and pitfalls	Diagnostic Cytopathology 2017;1- 4 doi.org/10.1002/dc.237 92	Original Article
100	Sayo Koga, Mika Seto, Shigoaki Moriyama, Toshihiro Kikuta	歯科口腔外科学	Anxiety before dental surgery under local anesthesia: reducing the items on state anxiety in the State-Trait Anxiety Inventory- form X	J Dent Anesth Pain Med 17(3):183-190, 2017	Original Article

小計20

101	古賀さよ、瀬戸美夏、森山茂章、喜久田利弘	歯科口腔外科学	State-Trait Anxiety Inventory-Form X (STAI-X)による状態不安段階判定の局所麻酔下口腔外科手術前に特化した質問項目被数化についての検討	日本歯科麻酔学会雑誌 45(5):646-653, 2017	Original Article
102	藤見幹太, 杉原亮, 濱之上暢也, ほか	リハビリテーション部	重症下肢虚血に対する和温療法を中心とした心リハチームの取り組み	心臓リハビリテーション 23(2・3・4):132-138, 2017	Original Article
103	小谷尚也, 後藤恭輔, 鎌田聡, ほか	リハビリテーション部	大腿神経麻痺に伴う大腿四頭筋の筋出力低下に対するロボットスーツHAL単関節タイプおよび随意運動介助型電気刺激装置IVESの有効性	理学療法学 44(3):232-237, 2017	Original Article
104	樋口 尚子	臨床検査部	自動遺伝子解析装置GeneXpertシステムを用いた血液培養からのMRSA迅速診断	臨床と微生物 Vol44 No.5:439-446, 2017	Original Article
105	久枝 恵美子, 嶋田 裕史, 緒方 利安, 他	臨床検査部, 神経内科, 脳神経外科	頸部エコー検査による硬膜動静脈瘻の治療前後の評価	Neurosonology 30(3):129-132, 2017	Original Article
106	Hidetoshi Kamimura, Tooru Yamano, Yuki Yasutaka, et al.	薬剤部	保険薬局における薬学的判断に基づく疑義照会の経済効果	薬理と治療, 45, 723-727(2017)	Original Article
107	Koyomi Hara, Yuki Yasutaka, Kentaro Ogata, et al.	薬剤部	神経内科病棟における薬剤業務の成果	九州薬学会, 71, 27-31(2017)	Original Article

小計7  
合計107

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・循環器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・呼吸器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・精神神経科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・形成外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・心臓血管外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・泌尿器科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・産婦人科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・眼科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・耳鼻咽喉科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・放射線科後期臨床研修プログラムに基づく研修

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	95.5人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 伸一郎	循環器内科	主任教授	24年	
向坂 彰太郎	消化器内科	主任教授	39年	
藤田 昌樹	呼吸器内科	主任教授	31年	
川崎 弘詔	精神神経科	主任教授	33年	
廣瀬 伸一	小児科	主任教授	38年	
高木 誠司	形成外科	主任教授	23年	
岩崎 昭憲	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	主任教授	37年	
山本 卓明	整形外科	主任教授	28年	
井上 亨	脳神経外科	主任教授	38年	
和田 秀一	心臓血管外科	主任教授	27年	
今福 信一	皮膚科	主任教授	26年	
田中 正利	泌尿器科	主任教授	38年	
宮本 新吾	産婦人科	主任教授	35年	
内尾 英一	眼科	主任教授	23年	
坂田 俊文	耳鼻咽喉科	主任教授	32年	
吉満 研吾	放射線科	主任教授	32年	
石倉 宏恭	救命救急センター	主任教授	32年	

山浦 健	麻酔科	主任教授	26年
------	-----	------	-----

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 院内教育（全職員対象）</li><li>・研修の期間・実施回数 平成29年度 28回開催（全体教育10回、実践セミナー18回）</li><li>・研修の参加人数 医療安全 3,260名、感染 3,209名</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 新採用者に対する研修</li><li>・研修の期間・実施回数 4月上旬～中旬 2日間 計4回</li><li>・研修の参加人数 82名</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容 メディカルセミナー</li><li>・研修の期間・実施回数 平成29年度 3回開催</li><li>・研修の参加人数 237名</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 井上 亨	
管理担当者氏名	庶務課長 赤木須美男 医療情報部事務室長 小陽賢一 薬剤部長 神村英利	医事課長 羽谷勝也 放射線部技師長 田中稔

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	検査部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		平成21年8月5日より、入院診療録及び外来診療録共に電子カルテの運用を開始。電子カルテシステム稼働以前の紙に記載された入院診療録は入院期間ごとに作成されターミナルディジエット方式にて分類保管し、外来診療録は全診療科共通として作成され、患者番号順に保管。電子カルテシステムにおいても紙診療録と同様に、全て一患者一登録番号で管理している。電子カルテシステム稼働後に作成された紙診療録は、前述の入院診療録、外来診療録と同様に入外別に保管。なお、入院診療録は最終来院日から20年間、外来診療録は15年間保管され、それ以上経過したものは廃棄。手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書はそれぞれの診療録に保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	庶務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	庶務課
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携センター
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		紙媒体で台帳保管、またデータ保管を行っている。	

掲げる事項 規則第一条の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記と同じ
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	感染制御部にて管理
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	以下項目、上記と同じ
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 医療安全管理部 庶務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	薬剤部にて一括管理
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	以下項目、上記と同じ
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター	臨床工学センターにて
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター	一括管理
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	以下項目、上記と同じ		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	医療安全管理部
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全管理部		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	事務長 立花 時弘	
閲覧担当者氏名	庶務課長 赤木 須美男、医事課長 羽谷勝也 医療情報部事務室長 小陽賢一	
閲覧の求めに応じる場所	病院西別館3階B会議室	
閲覧の手続の概要		

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



## 規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項</li> <li>3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針</li> <li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：医療安全管理委員会（1回/月）</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全院内教育 7 回</li> <li>2. 医療安全実践セミナー 11 回</li> </ol>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故・合併症・重要なインシデント事例の検討・医療安全教育の企画。</li> <li>2. 医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティマネージャー会を通じて伝達している。また、全職員に電子カルテ掲示板で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。</li> <li>3. 医療安全管理責任者および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。</li> <li>4. 病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。</li> <li>5. 「安全管理レポート」（毎月）と「医療安全情報」（適時）を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。</li> <li>6. 医療安全管理院内ラウンドを月 1 回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。</li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

## 規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に関する基本的考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項</li> <li>3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応</li> <li>6. 感染対策の閲覧に関する基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染対策委員会（1回／月）</li> <li>・ 感染制御部会議（1回／月）</li> <li>・ セーフティマネージャー会議（1回／月）</li> <li>・ 看護部部内感染対策委員会（1回／月）</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全院内教育 5 回</li> <li>2. 医療安全実践セミナー 7 回</li> </ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備し、遵守状況を院内各部署のラウンドで確認している。</li> <li>2. 1回／週、ICT（ICD、感染管理認定看護師（CNIC）、臨床検査技師、薬剤師の4職種）が院内各部署のラウンドを行い、耐性菌ラウンド、環境ラウンドを実施している。耐性菌ラウンドに際しては、資料（細菌検査室で全部署2週間分の分離菌一覧表、薬剤部で抗MRSA使用患者一覧表、カルバペネム系抗菌薬使用患者一覧表、CNICが病棟別耐性菌検出患者一覧表、ラウンドシート）を毎回準備している。</li> <li>3. 感染対策支援システム（電子カルテ端末上）で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認し、部署を感染対策について情報共有している。また、毎週1回以上、ICTミーティングを行っている。</li> <li>4. 院内感染を疑う場合には適宜、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。</li> <li>5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応する。</li> <li>6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、適宜介入し、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催している。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して電子カルテ端末上で通知し、診療部長会、セーフティマネージャー会を通じて感染対策について周知徹底を図っている。</li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 11 回
・ 研修の主な内容： ○注意すべき医薬品の取り扱い ○安全管理が必要な医薬品 ○医薬品に関する最近の話題 ○TDM ○薬剤（内服・外用）について ○注射ラベルの表示 ○肺移植後の薬剤について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・無 ) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の採用：薬事委員会において、医薬品安全管理責任者の立場で採用の可否を審議。 ○医薬品の管理：各部署で手順書業務確認表を用いて期限等を確認、月単位で医薬品安全管理責任者が確認。電子カルテシステムを用いた臨時購入医薬品の管理。 ○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項：注射払出システムによるバーコード認証の導入。 ○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項：薬剤管理指導業務の推進。 ○医薬品情報の収集・提供：医薬品情報室による情報収集と発信、副作用報告の一元管理。 ○他施設との連携：持参薬の確認および退院時指導の推進。病診薬連携の推進。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> ・無 ) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：なし  ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 調剤支援システムのチェック機能を利用して適応外、禁忌処方の情報収集 2. 複数規格のあるものは、処方箋印字の棚番が異なるように工夫 3. 電子カルテシステムを利用した日数制限、注射不可手技、極量（1日量、1回量）設定を開始。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 33 回
・ 研修の主な内容： 新規導入機器の研修 14回 新規・その他各種研修の主な内容は、人工呼吸器・輸液ポンプ・透析装置、内視鏡装置、NO吸入装置、体温管理装置、陰圧維持管理装置、除細動器などの研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、AED、閉鎖式保育器 麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、経腸栄養ポンプ、生体情報モニター、医用テレメータ パルスオキシメータ、12誘導心電計、低圧持続吸引器、超音波/非加熱式ネブライザー 逐次型空気マッサージ器、移動型X線装置、外科用内視鏡装置、電気手術装置、電動油圧手術台 体温管理装置、体外式ペースメーカー、顕微鏡、ポータブル吸引器、自己血回収装置 開放式保育器、BISモニター、神経刺激モニター、内視鏡用灌流装置、LED光線治療器、分娩監視装置 呼吸炭酸ガスモニター、酸素テント、眼科関連、内視鏡センター関連、放射線部関連	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ) 情報収集：医薬品医療機器総合機構、日本臨床工学技士会、日本医療機能評価機構、厚生労働省、 その他学会による安全情報の収集、メーカーによる安全情報の収集 情報の周知：医療安全委員会での報告 院内セーフティマネージャー会での報告 院内オーダーリング画面上に安全情報の掲載 関連部署への安全情報資料の配布・説明 医療機器の安全使用：臨床工学技士の研修 医療従事者への研修・実践・説明会 ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 前年度はありません ・ その他の改善のための方策の主な内容：	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 1 3 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無								
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理者責任者は以下のように医療安全管理部門等を統括している。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 病院長と連携し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の管理・指導を行っている。</li><li>2. 医師・薬剤師・看護師の医療安全専従者の業務の管理指導を行っている。</li><li>3. 専門分野責任者と連携し、各部門の医療安全を推進・指導している。</li><li>4. 医療事故発生時は、事故調査委員会、事故対策委員会における病院長の支援を行い、医療安全上の課題への対策について職員への周知、指導を行っている。</li></ol>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 12名 ) ・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 薬剤部薬品情報室に終日担当者を配置して情報の整理・周知を一元化</li></ol> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 未承認医薬品の申請は実績なし。</li><li>2. 適応外・禁忌使用処方について、調剤支援システムを用いて抽出する。</li></ol> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table border="0" data-bbox="181 1375 1278 1576"><tr><td>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr></table>		(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )
(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無								
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( 有・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月診療科・部署の医師・看護師に対してインフォームドコンセント記録を基に、説明日時・場所、同席者 (医療者・患者の家族)、患者・家族の反応等が記載されているか等の事項について監査を行っている。不備が認められる場合はインフォームドコンセント委員会から部署に改善指導を行っている。</p>									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療記録管理責任者として医療情報部長を、各診療科・部門に関する診療記録の管理担当者として各部門の長を配置している。</p> <p>診療記録管理責任者である医療情報部長の管理のもと、診療情報管理士を中心に①各病棟ラウンドによる入院診療計画書・同意書等の監査②入院診療計画書の作成率管理③入院カルテ庫受領時の診療記録の確認④退院サマリの回収率管理⑤指導料などの算定の根拠となるカルテ記載内容の確認⑥研修医カルテの承認状況などの診療記録の監査を実施し、不備訂正の依頼や指導を当事者へ直接実施するとともに、診療部長会、病床管理責任者連絡会（病棟医長、医局長出席）、へ監査状況報告及び依頼、指導を実施している。</p> <p>また、医師によるカルテ自主点検及びカルテレビュー等を通じて医師の意識統一と意識向上を図り精度向上に努めている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（ ）名、兼任（８）名  うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名  うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名  うち看護師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理部は、医療の安全に必要な指導、安全対策の推進、患者の相談に関する業務を行う。</p> <p>1. 医療法施行規則に基づく業務</p> <p>ア. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。</p> <p>イ. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>ウ. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>エ. 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>オ. 医療安全に係る連絡調整に関すること。</p> <p>カ. 高難度新規医療技術導入及び新規未承認医薬品等の使用の適否を決定する担当部門としての役</p>	

割を担う。

キ. その他医療安全対策の推進に関すること。

2. 医療安全管理委員会で決定した方針に基づく業務

ア. 医療安全カンファレンスで用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全カンファレンスの庶務に関すること。

イ. 医療安全管理部小委員会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全管理部小委員会の庶務に関すること。

ウ. セーフティマネジャー会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他セーフティマネジャー会の庶務に関すること。

エ. 事例検討会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他事例検討会の庶務に関すること。

オ. 患者および家族からのご意見・ご要望相談（医療紛争を除く）の対応に関すること。

カ. 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関すること。

キ. その他医療安全管理部長が必要と認めた業務に関すること

・ H28 年 4 月から毎月手術時の血栓予防策実施状況、インフォームドコンセントの実施状況、輸血時の PDA 認証状況等についてモニタリングを行い、診療状況の把握に努めている。

・ 院内ラウンドを毎月実施し、職員の医療安全に関する意識を把握し、意識向上のための方策を検討している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 3 件）、及び許可件数（ 3 件）

・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（  有 ・ 無 ）

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有 ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

1. 診療科の長から高難度新規医療技術の提供の適否について申請を受理したときは、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。

2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定し、申請を行った診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。

3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認められるときは、診療録等の記載内容を確認する。
4. 高難度新規医療技術の提供が適正な手続きに基づいていたかについて、医療提供者の遵守状況の確認を行う。
5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び医療提供者の遵守状況について確認したときは、その内容を病院長に報告する。
7. 高難度新規医療技術提供の評価に関する資料、議事録及び遵守状況確認記録は確認の日から5年間保存する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 ( 0 件 )、及び許可件数 ( 0 件 )
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 活動の主な内容：
  1. 担当部門の長は、診療部長から未承認新規医薬品等の使用の申請があったときは、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対し、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
  2. 担当部門の長は、委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請のあった診療部長に対しその結果を通知する。
  3. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認める場合には診療録の記載内容を確認する。
  4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、従業者の遵守状況の確認を行う。
  5. 未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した場合及び従業者の遵守状況について確認し



た場合は、その内容を病院長に報告する。

6. 未承認新規医薬品等の評価に関する審査資料、議事録及び遵守状況確認記録は、確認の日から5年間保存しなければならない。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 382 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 85 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

診療科に対して、全死亡事例について「死亡・死産事例報告書」の医療安全管理部への提出を義務付けている。また、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、特異事例として当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して速やかな報告を求めている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (  (病院名：大阪医科大学附属病院) ・ 無 )
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (  (病院名：大阪医科大学附属病院) ・ 無 )
- ・ 技術的助言の実施状況

訪問側の所見及び受入れ側の改善策を記載した相互ラウンド実施報告書を作成し、相互に内容を確認している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況  
当該部署及び医療安全管理部にて対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

別紙参照

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

【医療安全管理責任者】

医療・病院管理研究協会 特定機能病院安全管理責任者研修

【医療安全管理者（専従医師）】

日本病院会 医療安全管理者養成講習会

九州厚生局 平成 29 年度医療安全に関するワークショップ

【医療安全管理者（専従薬剤師）】

国際医療リスクマネジメント学会 医療安全認定臨床コミュニケーター実習研修 基礎編

九州厚生局 医療安全に関するワークショップ

国際医療リスクマネジメント学会 チーム医療安全研修会

日本病院会 医療安全管理者養成講習会アドバンスコース

【医療安全管理者（専従看護師）】

平成 29 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

【医薬品安全管理責任者】

平成 29 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

九州厚生局 医療安全に関するワークショップ

日本病院薬剤師会 平成 29 年度医薬品安全管理責任者等講習会

医療・病院管理研究協会 特定機能病院安全管理責任者研修

【医療機器安全管理責任者】

平成 29 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

九州厚生局 平成 29 年度医療安全に関するワークショップ

医療・病院管理研究協会 特定機能病院安全管理責任者研修

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

## 規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 福岡大学病院長候補者選考会議規程（現在、策定中） 医療法第16条の3第1項各号に掲げる事項の実施その他の特定機能病院の管理及び運営に関する業務の遂行に関し必要な能力及び経験を有する者</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>

## 規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ）</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
	副学長			有・無
	医学部長			有・無
	学部長（文系、理系各1人）			有・無
	医学研究科長			有・無
	福岡大学病院長			
	福岡大学病院事務長			
	福岡大学病院看護部長			
	福岡大学病院診療部長会のうちから互選により選出された教授3人			
	福岡大学病院に所属する技師長のうちから互選により選出された者2人			
	その他学長が必要と認める者若干人			

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の  
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>福岡大学病院診療部長会</p> <p>(1) 病院の診療、教育及び研究に関する事項</p> <p>(2) 病院の運営に関する事項</p> <p>(3) その他病院長が必要と認めた事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医局等、部署単位で所属長から回覧等により周知されている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職



規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・ ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

該当規程なし

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

施設長である病院長をトップとし副病院長と事務長が執行部を形成し、病院経営戦略会議で立案・事業計画を策定する。さらにアクションプランに落とし込まれ、目標を達成するための活動が行われる。診療科ならびに診療各部、看護部、事務部は、病院の基本理念を理解し、病院執行部の運営方針に協力する。

立案された事業計画は、経営に関しては企画運営検討委員会で検討、それ以外の事業については、それぞれの関連委員会にて審議され、病院の最高決定機関である診療部長会にて審議の上、承認される。承認された事業は、関連部署にて実施される。実施された結果はそれぞれの関連委員会委員長によって診療部長会にて報告される。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

病院長参加

特定機能病院安全管理責任者研修（平成29年11月17日）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1. 監査対象期間の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務実績についてヒアリングと記録を用いて監査する。</p> <p>2. 医療安全管理部門の各委員会、カンファレンス、活動内容について当事者からのヒアリングと議事録及び実施記録を用いて監査する。</p> <p>3. 必要に応じ、病院長及び開設者に対し、医療に係る安全については是正措置を講ずるよう意見を表明する。</p> <p>4. 管理者は業務結果について病院ホームページに公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( 有・<input checked="" type="checkbox"/> )</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
石倉 宏恭	福岡大学病院		院内監査委員 福岡大学病院診 療部長	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	1
田中 芳明	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
北野 登美子	久留米大学病院		医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
福岡大学内部監査室、平成18年4月1日設置  
年に一度、計画を策定して実施している。
- ・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 ( 有 ・  )
- ・ 公表の方法



規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院経営ボード</li> <li>・ 会議体の実施状況 ( 年24回 )</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 ) ( 年2回 )</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 ( 有・<input checked="" type="checkbox"/> )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
山口 政俊	学長	○	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
大慈弥 裕之	医学・医療担当副楽章		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
中川 誠士	財政担当副学長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
山村 昌次	事務局長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
朔 啓二郎	医学部長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
井上 亨	福岡大学病院長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
立花 時弘	福岡大学病院事務長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
中川 朋子	福岡大学病院看護部長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
向野 利寛	福岡大学筑紫病院長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
牟田 浩	福岡大学筑紫病院事務長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
石倉 宏恭	福岡大学西新病院長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
松室 誠	福岡大学西新病院事務長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
森戸 夏美	福岡大学博多駅クリニック診療 所長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
金森 勝俊	福岡大学博多駅クリニック事務 室長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
姜 文源	文系学部教育職員		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
田中 守	理系学部教育職員		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
鍋島 茂樹	メディカルセンター長補佐		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
上村 憲治	企画部長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
菊地 光男	総務部長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
岳 弘司	財務部長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
四俣 理夫	人事部長		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
三ツ角 直正	弁護士		<input checked="" type="checkbox"/> ・無
小島 憲明	病院経営に関する有識者		<input checked="" type="checkbox"/> ・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 通報件数 (年 0 件)</li><li>・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )</li><li>・ 周知の方法 福岡大学学報、福岡大学病院診療部長会、安全管理マニュアル</li></ul>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
【機関名】日本医療機能評価機構	
【時期】平成26年11月22日付け 認定継続	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
近隣の地域に対する情報発信として、各種セミナーを開催している。	
1つ目は、医療連携の促進・強化を目的として、福岡市医師会及び城南区医師会との共催で行う「福岡大学病院メディカルセミナー」と糸島医療圏の医療関係者を対象とした「糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会」である。	
このセミナーは、各診療科の診療技術や研究内容、病院として取り組んでいる医療体制等について、当院の医師が講演やパネルディスカッションを行うもので年6~7回開催している。	
2つ目は、地域の一般市民を対象とした「学んで予防!《福大病院 健康セミナー》」である。	
このセミナーは、城南区役所や城南保健所、城南校区の自治協議会や公民館の協力のもと、地域の皆さまが知りたいと思っている「健康や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会推薦の医師との協同で2ヶ月に1回程度開催しており、各回100~200名の地域住民の参加がある。また、29年度からは早良区医師会の協力も取り付け、対象地域を広げてより多くの皆さまに聴講いただく機会を作っている。	
3つ目は、地域がん診療拠点病院として、がん患者やそのご家族、そして一般市民を対象に「福	

岡大学病院がんセミナー」を開催している。

このセミナーは、がん治療の最前線の情報や各種がんの診療・治療・手術等の診療技術に関する  
こと、また、がん治療中の薬物療法や食事療法、治療中の社会生活に関することなど、がんについ  
てあらゆる知識や情報を発信している。

### 3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無

有・無

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。

「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、泌尿器科

「消化器センター」→消化器内科、消化器外科

「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科

「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科

「小児医療センター」→小児科、小児外科